

福岡歯科大学
医科歯科総合病院
概要 2022



Fukuoka Dental College Medical and Dental Hospital Outline 2022



Fukuoka Dental College Medical and Dental Hospital

病院の理念 Mission

私たちは、地域と社会、臨床と研究、医科と歯科、過去と未来を「つなぐ病院」として、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、地域の皆様に信頼され続ける病院をめざします。

病院の基本方針 Basic Policies of the hospital

1 患者中心の医療

患者の皆様の人格を尊重した優しさのある医療を提供し、地域の信頼に応えます。

2 安全・安心な高度医療の提供

医科歯科総合病院として多職種が協働し、安全・安心で高度な医療を推進します。

3 地域医療への貢献

地域の医療・介護・福祉施設と連携し、地域の皆様の健康維持に努めます。

4 全人的医療を実践できる医療人の育成

医療人としての誇りを持ち、患者の皆様的身になって考えることのできる医療人の育成に努めます。





福岡歯科大学医科歯科総合病院 病院長

坂上 竜資

Director of College Hospital, SAKAGAMI Ryuji

福岡歯科大学医科歯科総合病院は、2020年9月より新しい建物での診療を開始しました。皆様にも大変好評な新病院は、3階までの吹き抜け構造と正面のステンドグラスを備え、大規模災害時にも機能する免震構造となっています。また環境に配慮した建造物として、国土交通省の「サステナブル建築物先導事業(省CO2先導型)」にも採択されています。

本院はこれまで、1973年に「福岡歯科大学附属病院」として開設され、2005年からは「福岡歯科大学医科歯科総合病院」として生まれ変わりました。さらに現在では、24の医科診療科と12の専門歯科、50床の病棟からなる、全国的にも珍しい医科と歯科の総合病院となっています。また安全で安心な医療を皆様に提供すべく、2008年5月より日本医療機能評価機構認定病院となりました。

新病院は、「地域と社会をつなぐ」、「教育・研究・臨床をつなぐ」、「医科と歯科をつなぐ」、「未来へをつなぐ」をコンセプトに、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、地域の皆様に信頼され続けることをめざしています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大のなか、病院に従事する多職種の教職員が一丸となり感染対策を徹底する

ことにより、毎日の診療を行っております。

本院には医科と歯科の多くの専門医と認定医が在籍し、また種々の専門学会に認定された研修施設にもなっており、一般的な診療から高難度の診療まで各診療科が連携して対応しています。高難度の歯科インプラント治療における耳鼻咽喉科専門医へのコンサルテーションなどがその一例です。

新病院では「健診センター」を開設し、医科と歯科が連携して病気の早期発見に努めています。また、2021年4月に医科放射線診断科を開設し、256列マルチスライスCTや3.0T(テスラ)MRIなど最新の医療機器を備えました。この放射線科では、本院における診療と健診のほか、近隣の病院様からのご依頼による種々の検査や画像診断を行っています。2022年4月には、呼吸器内科を新設し、専門医による閉塞性肺疾患や喘息をはじめとした呼吸器疾患の診断と治療を行っています。新型コロナウイルスに対するワクチンの関連では、本院は基本型接種施設として、県からご依頼の医療従事者への集団接種ならびに大学関係の職域接種、市からご依頼の高齢者の皆様や一般の方々への個別接種を実施しています。

新病院では、電子カルテシステムを医科・歯科一体型に変更するなど、患者さんをトータルでサポートするためのシステム作りにも取り組んでいます。本院の2021年度の主要実績を見ると、①外来患者数:179,100人、1日平均704人(歯科471人、医科233人)、②病棟稼働率:70.3%、入院患者数:12,834人(1日平均35人)、③新患者数:16,654人(1日平均65.4人)、歯科9,900人(1日平均38.9人)、医科6,754人(1日平均26.5人)でした。

近年、お口の健康が全身の健康に大きく寄与することが、多くの研究により広く認められています。歯周病の進行が、心臓病、肺炎、糖尿病などさまざまな病気を増悪させることや、歯を失うほどに、高齢になって寝たきりになる可能性が高くなるという報告があります。福岡歯科大学は、口腔の健康から全身の健康を守るという「口腔医学」の重要性をこれまでも全国に先駆けて提唱してきました。本院は、これからも「口腔医学」の理念のもと、患者の皆様の人格を尊重した優しさのある医療を提供し、地域の皆様の信頼に応えることのできる病院となるよう努めていきます。さらに多職種が協働し、安全・安心な医療を推進するとともに、地域の医療・介護・福祉施設の皆様と連携し、地域に貢献できる病院を目指す所存でございます。今後とも何卒ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

目次 Contents

1. 沿革概要	4
2. 組織図	6
3. 管理者および役職員	7
4. 職員数	8
5. 歯科医師臨床研修	8
6. 診療科別患者数	9
7. 診療科別症例数	10
8. 施設基準届出一覧	13
9. 診療部門・支援部門の紹介	14
■ 歯科診療部門	14
総合歯科・口臭クリニック	15
高齢者歯科	15
訪問歯科センター	16
保存科 歯内治療	16
歯周病科	17
補綴(入れ歯)科・口腔顔面美容医療センター	17
口腔インプラント科	18
口腔外科・スポーツ歯科・顎変形症センター	18
矯正歯科	19
小児歯科	19
■ 小児口腔外傷センター	20
口腔医療センター	20
障害者歯科	21
口腔放射線診断科	21
歯科麻酔科	22
口腔病理診断科	22
■ 医科診療部門	23
内科・脳血管・循環器・腎臓・糖尿病内科	24
呼吸器内科	24
心療内科	25
外科・消化器科	25
形成外科・美容外科	26
耳鼻咽喉科	26
■ 摂食嚥下・言語センター(ことばと飲み込みのケアセンター)	27
眼科	27
小児科・神経小児科	28
整形外科	28
リハビリテーション科	29
皮膚科	29
内視鏡センター	30
放射線診断科	30
麻酔科(ペインクリニック)	31
病理診断科	31
■ 診療支援部門	32
看護部	33
歯科衛生士部	33
薬剤部(薬局)	34
滅菌・器材部	34
■ 中央診療施設	35
臨床検査室	36
栄養管理室	36
予防接種センター	37
健診センター	37
■ 事務課	38
10. 医療機関の承認・指定状況	40
11. フロアマップ	41

1. 沿革概要

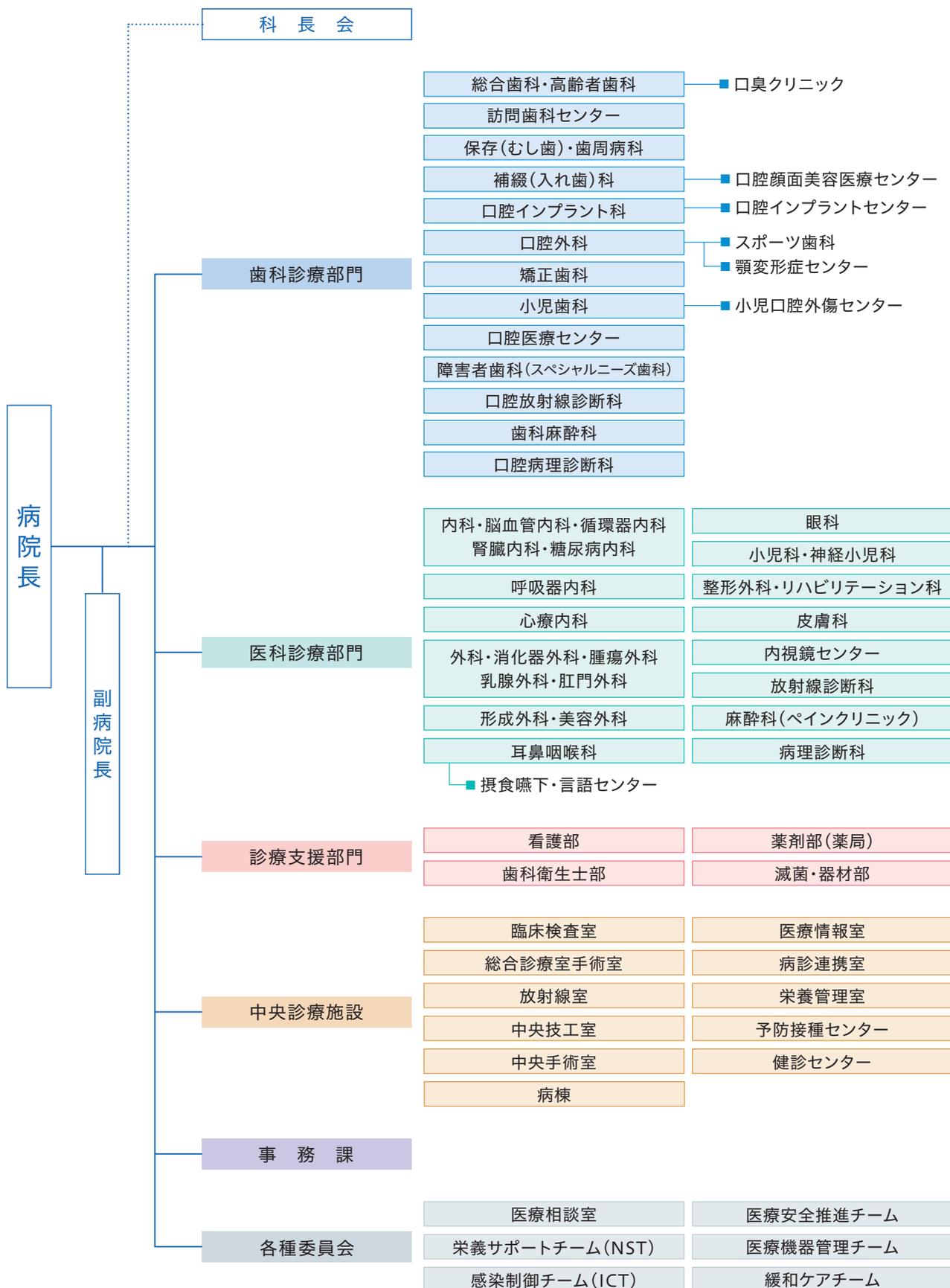
History

昭和47年	4月 1日	福岡歯科診療所開設 宮崎 三雄 教授 診療所長に就任
	7月27日	学校法人 福岡歯科学園 寄附行為認可、福岡歯科大学の設置認可
	10月 1日	松本 洋一 教授 初代附属病院長に就任
	10月23日	福岡歯科大学附属病院の開設認可
昭和48年	2月21日	福岡歯科大学附属病院 開設(病床30床)
	4月 1日	福岡歯科大学開学 附属病院歯科診療を開始
昭和49年	6月 1日	内科開設
昭和50年	4月 7日	歯科入院病棟開設
	7月 1日	外科開設
	8月 1日	基準寝具承認
	11月 1日	基準給食承認
昭和51年	8月24日	病床19床増設
	9月16日	内科、外科入院病棟開設
昭和52年	8月 1日	基準看護特1類承認
	10月 1日	第1期生臨床実習開始
昭和53年	4月 1日	麻酔科開設
昭和54年	2月 5日	古本 克磨 教授 附属病院長に就任
	8月 1日	病床1床増設(合計50床)
昭和60年	4月 1日	松浦 智二 教授 附属病院長に就任
昭和62年	6月 1日	卒業直後臨床研修開始
平成元年	4月 1日	吉田 穰 教授 附属病院長に就任
	10月 1日	予防歯科開設
	11月 1日	矯正歯科小児歯科診療科目の届出
	平成 2年	4月 1日
6月22日		病棟避難スロープ及び霊安室設置
平成 3年	4月30日	高齢・障害者歯科開設
平成 5年	4月 1日	松本 光生 教授 附属病院長に就任
平成 6年	4月 1日	富岡 徳也 教授 附属病院長に就任
平成 7年	3月20日	磁気共鳴コンピューター断層システム(MRI)の設置
平成 8年	3月25日	顎機能検査室の設置
	5月28日	高速ヘリカルコンピューター断層システム(CT)の設置
	9月24日	口腔インプラント科開設
	11月 1日	歯科口腔外科 診療科目の届出
平成 9年	5月27日	循環器科、消化器科 診療科目の届出
平成10年	4月 1日	松本 光生 教授 附属病院長に就任
平成11年	10月 1日	口臭クリニック・スポーツ歯科・訪問歯科開設
平成12年	3月29日	病棟増改築工事の安全祈願祭施行
	4月 1日	羽生 哲也 教授 附属病院長に就任
	11月30日	病棟増改築工事完成
平成13年	4月 1日	総合歯科開設
平成14年	4月 1日	本田 武司 教授 附属病院長に就任
平成15年	2月 1日	本川 渉 教授 附属病院長に就任
平成16年	2月20日	病院3階総合診療室手術室改修工事
	3月22日	病院玄関(エントランス)周り改修工事

平成16年	3月30日	病院3階シミュレーション実習室改修工事
平成17年	1月25日	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院へ改称
	2月1日	磁気共鳴コンピューター断層システム(MRI)の更新
	4月1日	心療内科開設、肛門科 診療科目の届出
	7月14日	特定共同指導を受審
平成18年	2月12日	カルテ検索システム導入
	9月29日	社会保険医療担当者の個別指導の実施
平成19年	3月23日	全身用コンピューター断層撮影装置(ボリュウムCTスキャンシステム)の更新 歯科用CT 3DXの設置
	4月1日	石川 博之 教授 病院長に就任、 耳鼻咽喉科・形成外科・口腔顔面美容医療センター開設
	7月1日	病院情報システム(HIS)稼動(オーダーリングシステム開始)
平成20年	5月19日	(財)日本医療機能評価機構認定証授与
平成21年	4月1日	本川 渉 教授 病院長に就任
平成22年	4月1日	松浦 正朗 教授 病院長に就任、 眼科開設、放射線診断科、脳血管内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病内科、消化器外科、腫瘍外科、 乳腺外科、肛門外科、美容外科診療科目の届出
平成23年	4月1日	小島 寛 教授 病院長に就任
平成24年	5月22日	病理診断科目の届出
平成25年	4月1日	小児科、整形外科開設
	6月7日	(財)日本医療機能評価機構更新認定
平成26年	4月1日	阿南 壽 教授、大星 博明 教授 副病院長に就任
	11月3日	電子カルテシステム導入、運用開始
平成27年	4月1日	池邊 哲郎 教授 病院長に就任
	10月1日	皮膚科開設
平成28年	4月1日	高橋 裕 教授、篠原 徹雄 教授 副病院長に就任
	5月27日	リハビリテーション科診療科目の届出
平成29年	4月1日	樋口 勝規 教授 副病院長に就任
	10月1日	訪問歯科センター 開設
	11月1日	内視鏡センター開設
平成30年	4月1日	阿南 壽 教授、川野 庸一 教授 副病院長に就任
	5月11日	(財)日本医療機能評価機構更新認定
	10月1日	小児口腔外傷センター開設
平成31年	4月1日	阿南 壽 教授 病院長に就任
令和元年	10月7日	摂食嚥下・言語センター開設
令和2年	4月1日	顎変形症センター開設
		中畑 高子 教授 副病院長に就任
	9月26日	新病院建築工事完成
	9月29日	新病院開院 健診センター開設
令和3年	4月1日	これまでの放射線診断科を口腔放射線診断科に改称し、医科診療科に対応する放射線診断科を設置、 都築 尊 教授 副病院長に就任
令和4年	4月1日	坂上 竜資 教授 病院長に就任、 古村 南夫 教授 副病院長に就任

2. 組織図

Organization Chart



3. 管理者および役職員

Faculty and Administrative Officials

病院長 | 坂上 竜資

副病院長 | 古村 南夫 都築 尊 樋口 勝規 中畑 高子

診療科長

診療科名	科長
総合歯科・高齢者歯科・口臭クリニック	米田 雅裕
訪問歯科センター	森田 浩光
保存(むし歯)・歯周病科	松崎英津子
補綴(入れ歯)科・ 口腔顔面美容医療センター	松浦 尚志
口腔インプラント科・ 口腔インプラントセンター	城戸 寛史
口腔外科・スポーツ歯科・ 顎変形症センター	池邊 哲郎
矯正歯科	玉置 幸雄
小児歯科・小児口腔外傷センター	岡 暁子
障害者歯科	小島 寛
口腔放射線診断科	香川 豊宏
放射線診断科	川波 哲
歯科麻酔科・麻酔科(ペインクリニック)	池田 水子
内科・脳血管内科・循環器内科・ 腎臓内科・糖尿病内科	大星 博明
呼吸器内科	松元幸一郎
心療内科	金光 芳郎
外科・消化器外科・腫瘍外科・ 乳腺外科・肛門外科	池田 哲夫
内視鏡センター	池田 哲夫
形成外科・美容外科	萩家 康弘
耳鼻咽喉科・摂食嚥下・言語センター	山野 貴史
眼科	大島 裕司
小児科・神経小児科	鳥巢 浩幸
整形外科・リハビリテーション科	西尾 淳
皮膚科	古村 南夫
口腔病理診断科・病理診断科	

施設長

施設名	施設長
臨床検査室	大星 博明
総合診療室手術室	城戸 寛史
放射線室	香川 豊宏
中央技工室	城戸 寛史
中央手術室	池田 水子
病棟	山野 貴史
医療情報室	鳥巢 浩幸
病診連携室	池田 哲夫
栄養管理室	中畑 高子
予防接種センター	岡田 賢司
健診センター	樗木 晶子

部・課長

部局・課名	部・課長
看護部	松尾 佳代 伊藤 明美
歯科衛生士部	手嶋 直美
薬剤部(薬局)	外尾 典子
滅菌・器材部	中畑 高子
病院事務課	横大路智視

4. 職員数

Number of Enrolled Staffs

歯科医師

(令和4年5月1日)

教授	准教授	講師	助教	医員	研修歯科医
18	7	25	33	61	37

医 師

(令和4年5月1日)

教授	准教授	講師	助教
12	1	4	17

医療職等

(令和4年5月1日)

薬剤師	臨床検査技師	診療放射線技師	歯科衛生士	歯科技工士	管理栄養士	視能訓練士
2	5	7	32	5	2	2

理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	看護師	ソーシャルワーカー	事務職員
3	1	2	55	2	19

5. 歯科医師臨床研修

Clinical Training for Dentists

プログラム数・募集定員

(令和4年5月1日)

プログラム数	募集定員	
	プログラムI	プログラムII
2	95	20

採用数

(令和4年5月1日)

平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
43	50	49	37

協力型臨床研修施設数

(令和4年5月1日)

平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
89	88	86	83

6. 診療科別患者数

Faculty and Administrative Officials

(令和3年度)

診療科名	外来(252.75日)		入院(365日)	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均
総合歯科	15,010	59.4	-	-
口臭クリニック	77	0.3	-	-
高齢者歯科	8,560	33.9	-	-
訪問歯科センター	4,997	19.8	-	-
保存(むし歯)・歯周病科	19,181	75.9	-	-
補綴(入れ歯)科	14,526	57.5	-	-
口腔インプラント科	8,078	31.9	26	0.1
口腔外科	16,819	66.5	4,245	11.6
スポーツ歯科	0	0.0	0	0.0
口腔顔面美容医療センター	20	0.0	0	0.0
矯正歯科	14,095	55.8	-	-
小児歯科	13,532	53.5	121	0.3
障害者歯科	4,249	16.8	20	0.1
歯科麻酔科	607	2.4	-	-
歯科計	119,751	473.7	4,412	12.1
内科	17,022	67.4	2,092	5.7
小児科	6,951	27.5	-	-
心療内科	2,716	10.8	67	0.2
外科	3,771	14.9	3,287	9.0
整形外科	5,415	21.4	661	1.8
皮膚科	5,548	21.9	5	0.1
形成外科	1,762	6.9	21	0.1
耳鼻咽喉科	6,007	23.8	1,290	3.5
眼科	7,056	27.9	996	2.7
麻酔科	2,095	8.3	-	-
医科計	58,343	230.8	8,419	23.1
合計	178,094	704.5	12,831	35.2
健診センター	1,006	3.9	3	0.0

a. 年度別患者数

外来			入院		
平成31年度	令和2年度	令和3年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
194,243	165,603	178,094	10,981	10,448	12,831

b. 年度別1日平均患者数

外来			入院		
平成31年度	令和2年度	令和3年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
757.0	641.0	704.5	30.1	37.6	35.2

7. 診療科別症例数

Number of cases at Each Clinical Division

年間手術症例数

(令和3年)

診療科	臨床指標	実績
歯周病科	歯周外科手術件数	76
	歯科衛生士メンテナンス件数	1,272
	全身麻酔手術症例数	合計 8,269
口腔外科	口腔癌	37
	口腔潜在的悪性疾患	3
	嚢胞	53
	抜歯	68
	顎変形症	56
	顎変形症関連手術	62
	顎骨骨折	8
	良性腫瘍	14
	唾液腺疾患	12
	顎骨再建・インプラント	3
	炎症	4
その他	8	
	初診患者数	3,567
	外来手術数	4,234
	静脈内鎮静手術	140
口腔医療センター	抜歯	2,207
	普通抜歯	703
	難抜歯	272
	埋伏歯抜歯	1,232
	(下顎難抜歯937例を含む)	
	手術症例数	合計 128
外科・ 内視鏡センター	食道腫瘍	4
	胃癌	6
	小腸癌 その他	1
	大腸・直腸癌	20
	イレウス	3
	虫垂炎	9
	肝腫瘍	2
	膵・胆道腫瘍	4
	胆道結石	16
	ヘルニア	26
	乳癌	9
	肛門	12
	その他	13
	形成外科	外来手術件数
レーザー治療		667
耳鼻咽喉科	口蓋扁桃摘出術	22例
	内視鏡下鼻副鼻腔手術	20
	耳下腺腫瘍摘出術	6
	喉頭微細手術	5
	アデノイド摘出術	5
	甲状腺腫瘍摘出術	3
	顎下腺摘出術	3
	軟口蓋形成術	3
	嚥下機能改善手術	3
	舌腫瘍摘出術	2
	正中顎のう胞摘出術	1
	鼓膜チューブ挿入	1
咽頭異物摘出	1	

診療科	臨床指標	実績
眼科	白内障手術	298
	硝子体手術	22
	緑内障手術	21
	眼瞼手術	12
	硝子体内注射	326
整形外科	手術症例数	30

年間症例数

(令和3年)

診療科	臨床指標	実績	
口腔インプラント科	埋入本数	215本	
	オッセオインテグレーション率	99%以上	
矯正歯科	外科的矯正治療の開始件数	399症例 (検査数 479)	
訪問歯科センター	病院(提携先4病院合計)	592	
	介護施設(提携先4施設合計)	1,451	
	居宅	89	
	合計	16,192	
放射線診断科/ 口腔放射線診断科	一般撮影	口内法 3,404 口外法 8,905	
	CT	単 純	1,163
		造 影	283
	MRI	単 純	249
		造 影	74
	CBCT		1,364
	US		750
内科	糖尿病教育入院	21	
	頸部血管エコー件数	41	
	心エコー件数	241	
心療内科	外来症例数	339	
	内視鏡症例数	合計 858	
外科・ 内視鏡センター	上部	534	
		小腸 5	
		超音波内視鏡 6	
	胆道	25	
		ダブルバルーン 6	
		胆道鏡 0	
	下部	299	
		Polypectomy 98	
	ESD	11	
		食道 4	
	胃 3		
	大腸 4		
摂食嚥下・言語センター	年間嚥下リハビリテーション件数	1,992	
	脳血管疾患等リハビリテーション	1,026	
	がん患者リハビリテーション	745	
	摂食機能療法	221	
小児科・神経小児科	神経発達外来新患件数	233	
	脳波検査件数	68	
	WISC-IV件数	66	
麻酔科・ペインクリニック	麻酔科外来患者件数	2,516	
	全身麻酔件数	409	
	静脈内鎮静件数	282	
口腔病理診断科・ 病理診断科	院内病理診断数(組織診)	796	
	院内病理診断数(細胞診)	337	
	術中迅速診断件数	29	

7. 診療科別症例数 Number of cases at Each Clinical Division

健診センターコース別実施件数

(令和3年)

診療科	コース/項目名	件数
歯科	口腔健診	8
	高等学校口腔健診	2,047
歯科+医科	定期+口腔健診	6
	定期健康診断	83
	インプラント術前健診	27
	教職員定期健康診断	687
	教職員特定業務(夜勤・有害物質)健康診断	143
	教職員電離放射線健康診断	368
	教職員採用時健康診断	139
	よかドック	266
	後期高齢特定健診	118
	集合(協会けんぽ)	8
	集合(健保、共済)	19
	生活習慣特定健診(生保)	3
	歯科医師国保人間ドック	3
	福岡市胃がん検診	67
福岡市大腸がん検診	163	
福岡市乳がん検診	195	
福岡市前立腺がん検診	23	
福岡市胃がんリスク検診	8	
その他オプション	490	
合計		4,871

8. 施設基準届出一覧 (九州厚生局令和4年7月1日現在)

Legal Authorization of Medical Services

No.	受理届出名称	受理記号	受理番号	算定開始年月日
A. 基本診療料				
1	地域歯科診療支援病院歯科初診料	病初診	第25号	平成31年 3月 1日
2	歯科外来診療環境体制加算 2	外来環2	第39号	平成30年10月 1日
3	歯科診療特別対応連携加算	歯特連	第20号	令和 4年 4月 1日
4	一般病棟入院基本料 5	一般入院	第5号	令和 4年 4月 1日
5	診療録管理体制加算 2	診療録2	第215号	平成22年 4月 1日
6	急性期看護補助体制加算 50対1 看護補助体制充実加算	急性看護	第194号	令和 4年 4月 1日
7	看護職員夜間配置加算 16対1 配置加算2	看護夜配	第102号	令和 4年 4月 1日
8	療養環境加算	療	第296号	令和 2年11月 1日
9	重症者等療養環境特別加算	重	第360号	令和 3年 8月 1日
10	栄養サポートチーム加算 感染対策向上加算 3	栄養チ	第148号	平成 3年 3月 1日
11	サーベイランス強化加算 連携強化加算	感染対策3	第13号	令和 4年 4月 1日
12	病棟薬剤業務実施加算 1	病棟薬1	第123号	平成29年10月 1日
13	データ提出加算 1	データ提	第237号	平成30年 6月 1日
14	入退院支援加算 2	入退支	第240号	令和元年 7月 1日
15	認知症ケア加算 3	認ケア	第243号	令和 2年 4月 1日
16	せん妄ハイリスク患者ケア加算	せん妄ケア	第121号	令和 3年 8月 1日
17	地域歯科診療支援病院入院加算	地歯入院	第6号	平成24年 4月 1日
B. 特掲診療料				
18	入院時食事療養/生活療養(I)	食	第468号	平成 3年 3月 1日
19	がん性疼痛緩和指導管理料	がん疼	第226号	平成24年 4月 1日
20	小児運動器疾患指導管理料	小運指管	第57号	令和 2年 4月 1日
21	ニコチン依存症管理料	ニコ	第957号	平成29年 7月 1日
22	がん治療連携指導料	がん指	第412号	平成23年10月 1日
23	こころの連携指導料(II)	こ連指 II	第8号	令和 4年 4月 1日
24	薬剤管理指導料	薬	第412号	平成19年 4月 1日
25	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	医管	第529号	平成18年 4月 1日
26	歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料	在宅管	第90号	平成26年 8月 1日
27	遺伝学的検査	遺伝検	第14号	平成29年 4月 1日
28	検体検査管理加算(I)	検 I	第308号	平成20年 4月 1日
29	神経学的検査	神経	第175号	平成25年 4月 1日
30	口腔細菌定量検査	口菌検	第4号	令和 4年 4月 1日
31	有床義歯咀嚼機能検査 1のイ	咀嚼機能1	第16号	平成28年 8月 1日
32	有床義歯咀嚼機能検査 1のロ及び咀嚼能力検査	咀嚼能力	第16号	平成28年 8月 1日
33	有床義歯咀嚼機能検査 2のイ	咀嚼機能2	第6号	平成30年 8月 1日
34	有床義歯咀嚼機能検査 2のロ及び咬合圧検査	咬合圧	第20号	平成30年 8月 1日
35	精密触覚機能検査	精密触覚	第4号	平成30年 8月 1日
36	睡眠時歯科筋電図検査(一連につき)	歯筋電図	第19号	令和 3年 9月 1日
37	画像診断管理加算 1	画1	第126号	令和 3年 8月 1日
38	画像診断管理加算 2	画2	第219号	令和 4年 1月 1日
39	歯科画像診断管理加算 1	歯画1	第4号	平成18年 4月 1日
40	歯科画像診断管理加算 2	歯画2	第1号	平成24年 4月 1日
41	遠隔画像診断	遠画	第7号	平成23年12月 1日
42	CT撮影及びMRI撮影	C・M	第652号	令和 4年 1月 1日
43	冠動脈CT撮影加算	冠動C	第106号	令和 4年 4月 1日
44	心臓MRI撮影加算	心臓M	第79号	令和 4年 4月 1日
45	無菌製剤処理料	菌	第132号	平成20年 4月 1日
46	脳血管疾患等リハビリテーション料(II)	脳 II	第126194号	令和 2年 3月 1日
47	運動器リハビリテーション料(I)	運 I	第560号	令和 2年 3月 1日
48	呼吸器リハビリテーション料(II)	呼 II	第121号	平成26年 8月 1日
49	がん患者リハビリテーション料	がんリハ	第157号	平成30年11月 1日
50	歯科口腔リハビリテーション料 2	歯リハ2	第135号	平成26年 4月 1日
51	手術用顕微鏡加算	手術微加	第35号	平成28年 4月 1日
52	口腔粘膜処置	口腔粘膜	第438号	平成30年 4月 1日
53	う蝕歯無痛の窩洞形成加算	う蝕無痛	第56号	平成22年 4月 1日
54	CAD/CAM冠	歯CAD	第732号	平成26年 4月 1日
55	有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算 1及び2	歯技工	第337号	平成22年 4月 1日
56	緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	緑内障ド	第44号	令和元年 9月 1日
57	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	硝切	第16号	平成24年 4月 1日
58	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科) 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)	歯顎移	第6号	令和 3年12月 1日
59	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	ペ	第147号	平成13年 6月 1日
60	悪性腫瘍病理組織標本加算	悪病組	第44号	令和 4年 6月 1日
61	摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算 2	摂嚥回2	第5号	令和 4年 4月 1日
62	腹腔鏡下リンパ節郭清術(側方)	腹り傍側	第12号	令和 4年 4月 1日
63	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	早大腸	第66号	令和 4年 4月 1日
64	内視鏡的小腸ポリープ切除術	内小ポ	第17号	令和 4年 4月 1日
65	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	胃瘻造	第57号	平成26年 4月 1日
66	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	胃瘻造嚥	第81号	平成26年 6月 1日
67	歯周組織再生誘導手術	GTR	第153号	平成20年 4月 1日
68	手術時歯根面レーザー応用加算	手術歯根	第23号	平成22年 4月 1日
69	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	人工歯根	第8号	平成24年 4月 1日
70	歯根端切除手術の注3	根切顕微	第98号	平成29年 4月 1日
71	レーザー機器加算	手光機	第429号	平成30年 4月 1日
72	麻酔管理料(I)	麻管 I	第85号	令和 3年 7月 1日
73	歯科麻酔管理料	歯麻管	第10号	令和 2年 5月 1日
74	口腔病理診断管理加算 1	口病診1	第1号	平成26年 6月 1日
75	クラウン・ブリッジ維持管理料	補管	第747号	平成 8年 4月 1日
76	歯科矯正診断料	矯診	第95号	平成22年 4月 1日
77	顎口腔機能診断料(顎変形症(顎関節等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)	顎診	第1号	平成19年 6月 1日
78	酸素の購入単価	酸素	第145889号	令和 4年 4月 1日

9. 診療部門・支援部門の紹介

Information for Clinical Division and Medical support Division

歯科診療部門

医科診療部門

診療支援部門

中央診療施設

事務課

| 診療部門 | Clinical Division |

歯科診療部門

Dental Clinics

総合歯科・口臭クリニック

総合歯科は初診の患者さんの対応および短期間で終了する疾患の一口腔単位の治療を行っています。総合初診では医療面接、診査等を行い、専門診療科の指導医と共に一次的な治療方針を決定します。もしも専門的な治療が必要と考えられたら担当診療科へ治療を依頼します。総合歯科では口臭の検査や相談も行っています。



科長 米田 雅裕



教授 谷口 奈央



個室診療室

■得意分野

総合歯科では初回から最終治療まで一人の歯科医師が責任をもって担当します。歯科治療に不安がある場合は笑気鎮静下で治療を行うことも可能です。口臭クリニックでは最先端の機器を用いて口臭を測定し、診断を行います。

■診療体制

一般歯科初診の場合は予約なしで構いませんし、紹介状がなくても大丈夫です。口臭クリニックは専用の部屋で診療を行いますので、事前の予約をお願いします。

■診療方針

総合的で、しかも患者さんに優しい治療を心がけています。総合歯科の歯科医師は、日本総合歯科学会の会員であり、指導医や認定医が若手歯科医師の指導を行っています。口臭担当医は日本口臭学会の指導医、専門医で、正確な診断および丁寧な説明を行っています。歯科治療は不安なこともありますが、優しく声掛けを行いますので安心してご相談ください。

■対象疾患

一般歯科(むし歯、歯周病、かぶせ物、入れ歯等)、口臭、変色歯等

■主な治療

総合診療(一口腔単位の治療)、レーザー治療、笑気鎮静法、ホワイトニング等

■学会施設認定

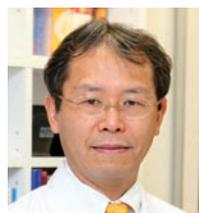
- 日本総合歯科学会認定施設
- 日本口臭学会認定施設
- 日本口腔衛生学会認定施設



最先端の口臭測定機器

高齢者歯科

高齢者歯科では、心臓病や脳卒中などのために血液がサラサラになる薬を飲まれている方、車椅子で移動されているために診察台に移ることが難しい方、認知症などのためになかなか口を開けるのが難しい方、飲み込みが悪くなってむせやすいといった方への治療を行っています。



副科長 内藤 徹



車いすで来院された患者さんに容易に対応できる診察台を完備

■得意分野

病気をお持ちのご高齢の方のむし歯の治療、抜歯、入れ歯作製や予防処置を主に行っています。車いすの方を診察台に移乗しないまま歯科治療を行うための設備や、診療中にその場でレントゲン撮影ができる治療室も備えています。また、食事の際にムセが起きやすい方の嚥下障害の診断とリハビリテーションの専門医や、さまざまな検査や治療をしても改善しない、原因の特定しにくい口の症状を専門に診るスタッフも治療を行っています。

■診療体制

日本老年歯科医学会専門医、日本歯科心身医学会専門医、日本歯周病学会専門医、日本歯科保存学会専門医などの専門性を持ったスタッフが、毎週カンファレンスを行って難しい症例に対応しています。

■診療方針

患者さんの心と身体の状態に配慮して、生活の質の維持につながるような治療を目指しています。

■対象疾患

むし歯の治療、抜歯、入れ歯作製など歯科一般の治療に加え、心と身体のバランスについても特別に配慮をする治療を行っています。

■学会施設認定

日本老年歯科医学会、日本歯科心身医学会、日本歯科保存学会の研修施設として登録されています。

訪問歯科センター

超高齢社会の現在、歯科訪問診療のニーズが高くなっています。当科は、病院・介護施設・居宅等のさまざまな場所への歯科訪問診療を行っています。なお、必要に応じて当院歯科専門診療科と連携し、さまざまな口腔疾患に対応しています。



センター長 森田 浩光



診療風景

得意分野

身体的理由により歯科外来に通院できない方、歯科のない病院(主に提携先病院)や当院医科に入院中でお口の問題をお持ちの方やがん治療(手術・抗がん剤治療・放射線療法)予定および治療中の方などに対して、診療器材を持参して歯科治療・口腔ケアを行います。

診療体制

全身管理を得意とする歯科医師・歯科衛生士が中心となって診療します。

診療方針

医科と連携し、全身管理のもとで安全・安心な歯科訪問診療を行うことを基本方針としています。

対象疾患

各種口腔疾患(むし歯、歯周病、義歯作製・修理・調整、粘膜

疾患など)、口腔機能低下症、摂食嚥下障害等の疾患に、適宜当院専門診療科と連携して対応しています。

主な検査

むし歯や歯周病、義歯などの一般的な歯科検査、高齢者の口腔機能低下症の検査、摂食嚥下の検査

主な治療

口腔ケアや応急処置をはじめ、むし歯、歯周病、義歯等の一般歯科治療を行います。また、飲み込みの悪い方、ムセのある方の摂食嚥下に関する治療・リハビリも行います。

学会認定指導医・専門医・認定医

- 日本有病者歯科医療学会(指導医2名、専門医2名、認定医2名)
 - 日本老年歯科医学会(専門医2名、認定医1名)
 - 日本障害者歯科学会(指導医2名、専門医1名、認定医1名)
 - 日本総合歯科学会(指導医1名、認定医1名)
- (臨床教授を含む)

保存科 歯内治療

いつまでも大切な自分の歯で噛めるように治療を行い、その歯をお口の中で機能させていくのが「歯科保存治療」です。主として歯内治療(根管治療)、う蝕(むし歯)治療を行っています。また、歯の漂白(ホワイトニング)も実施しています。



科長 松崎 英津子



マイクロスコープと歯科用CBCT検査による根管検査

得意分野

う蝕に対する修復治療、歯髄炎・根尖性歯周炎に対する歯内療法および歯根尖切除法などの外科的歯内療法を行っています。当院では、マイクロスコープおよび歯科用コーンビームCT装置を備え、精密な根管検査に基づく歯内療法を実施しており、近隣歯科医院からの紹介も多くいただいています。また、歯性上顎洞炎に対しては、耳鼻咽喉科・口腔外科・放射線科との連携によるチーム医療を実践しています。

診療体制

日本歯科保存学会、日本歯内療法学会、日本外傷歯学会、日本歯周病学会で研鑽を積んでいる専門性の高いスタッフを中心に、歯内療法を基盤とした包括的な歯科医療に取り組んでいます。

診療方針

安全・安心で高度な歯科医療を提供します。オーダーメイド

の質の高い歯科保存治療を達成するために、最新の機器を活用した検査を実施し、病状や治療等についての十分な説明に基づくインフォームドコンセントの取得を心がけています。

対象疾患

う蝕、根面う蝕、歯髄炎、根尖性歯周炎、歯の破折、歯内歯周疾患、歯の変色など

主な検査

歯科用コーンビームCT検査(歯専用の三次元的なエックス線検査)、マイクロスコープ(治療用顕微鏡)による根管検査など

学会認定医・専門医

- 日本歯科保存学会専門医1名、認定医4名
- 日本歯内療法学会研修責任者1名
- 日本外傷歯学会認定医1名
- 日本歯周病学会専門医1名

歯周病科

なるべく歯を抜かずに歯を保存するような治療を心がけています。歯周病の治療、むし歯の治療、そして歯の神経や根の管の治療を中心にを行っています。



科長 坂上 竜資



歯周組織再生療法の診療風景

■ 得意分野

基本的な歯周病の治療から最新の歯周組織再生療法、審美性を回復するための歯根面の被覆術、欠損部位への歯科インプラント手術、咬合性外傷の治療などを行っています。

■ 診療体制

日本歯周病学会専門医・認定医がおり、月曜から金曜まで診療にあたっています。

■ 診療方針

患者さんの全身状態に配慮しながら、なるべく歯を抜かずに治療を進めます。治療の流れとしては、第一段階として、原因となるプラークを取り除くためのブラッシング指導や歯石取り、かみ合わせの調整などの歯周基本治療を行います。次に第二段階として、炎症がひいてもなお歯肉に不良な形態が残っている場合には歯周外科手術を行います。さらに

第三段階として、かみ合わせを回復し、揺れている歯をしっかり固定するためにかぶせ（冠）や入れ歯を作ります。最後に第四段階として、定期点検を行って、再発を防止するメンテナンスに進めてまいります。

■ 対象疾患

歯周病、咬合性外傷、歯肉退縮、歯髄炎、根尖性歯周炎、う蝕

■ 主な治療

歯周基本治療、歯周組織再生療法を含む歯周外科手術、メンテナンス、根面被覆術、歯周病患者を対象としたインプラント治療

■ 学会施設認定

- 日本歯周病学会
- 日本臨床歯周病学会
- 日本歯科保存学会

補綴（入れ歯）科・口腔顔面美容医療センター

補綴科では、歯冠がむし歯で崩壊したり、歯周炎で歯を失った後に、クラウン（かぶせもの）、ブリッジ、部分床義歯（部分入れ歯）、全部床義歯（総入れ歯）を装着して、かみ合わせを回復させ、咀嚼や発音や審美を改善する治療を行っています。口腔顔面美容医療センターでは、審美を重視し、ホワイトニングやセラミッククラウンによる自費治療を行っています。



科長 松浦 尚志



デジタル技術(CAD/CAM)による
ブリッジ設計



診察風景

■ 得意分野

従来の方法によるクラウン・ブリッジ治療、部分床義歯、全部床義歯、口腔がん治療後の顎義歯。最新のデジタル技術(CAD/CAM)を用いたクラウンブリッジ治療、審美治療。

■ 診療体制

日本補綴歯科学会指導医、専門医、認定医、日本口腔インプラント学会専門医、日本老年歯科医学会認定医が専門的な診療に当たっています。また、日本顎顔面補綴学会認定医が口腔がんの治療後の顎義歯治療を専門に行っています。

■ 診療方針

患者さんのために最も適した治療を十分な説明を行った上で適切に行うことを心がけています。最先端の治療からオーソドックスな治療まで提供いたします。

■ 対象疾患

歯の崩壊や喪失によって生じる咀嚼障害、審美障害、口腔がんの切除に伴う顎骨の欠損、顎関節症、歯ぎしり。

■ 主な治療

クラウン、ブリッジ、部分床義歯、全部床義歯、顎義歯による治療。顎関節症や歯ぎしりに対する治療。

■ 学会施設認定

- 日本補綴歯科学会
- 日本老年歯科医学会
- 日本顎顔面補綴学会

口腔インプラント科

最新のデジタル機器を活用して「安心で安全なインプラント治療」を提供いたします。



科長 城戸 寛史



ナビゲーションシステムによる手術

■ 得意分野

正確なインプラント埋入手術を行うために最新のデジタル機器を導入しています。患者さんの顎の骨のCTデータを使用して、インプラントの埋入位置を決定し、計画通りの位置にインプラントを埋入できるように、CAD/CAM製作(コンピュータ設計で製作する方法)のドリルガイドを使用したり、ナビゲーションシステム(顎の骨の中のドリルの位置をモニターで見る装置)を使用したりします。また、上部構造(インプラントに取り付ける歯の部分)もCAD/CAMで製作するため精度が高く、ジルコニア等の生体親和性(人体の組織となじみやすく有害性がない)の高い材料を採用しています。

■ 診療体制

公益社団法人日本口腔インプラント学会、公益社団法人日本顎顔面インプラント学会の専門医と指導医が診療にあた

ります。また、日本口腔インプラント学会の専門衛生士および技工士が治療をアシストします。

■ 診療方針

インプラント治療により、患者さんの失った歯を回復し、食べる機能、しゃべる機能および審美性の回復に努めます。また、口腔外科などの他の歯科診療科だけでなく、内科や耳鼻科などの医科と連携し、安全で安心なインプラント治療を供給します。

■ 学会施設認定

- 公益社団法人日本口腔インプラント学会
- 公益社団法人日本顎顔面インプラント学会

口腔外科・スポーツ歯科・顎変形症センター

口腔・顎・顔面領域にはさまざまな疾患が発生します。そのような疾患を入院下または外来通院にて、外科手術で治療します。また、口内炎などの粘膜疾患、顎関節疾患、唾液腺疾患などを、全身疾患と関連付けながら診断・治療します。親知らずなどの難抜歯や全身管理が必要な有病者の抜歯も行います。



科長 池邊 哲郎



副科長 平木 昭光



手術室における口腔癌手術

■ 得意分野

入院下に全身麻酔や鎮静法で外科手術をします。

【口腔がん】 外科手術を中心に当院の摂食嚥下・言語センターや近隣の大学・総合病院と連携を行い、集学的治療を行います。また、制御率のみならず、摂食嚥下や咀嚼の改善など、術後のQOLを考慮した治療を行っています。

【顎変形症センター】

下顎前突症などの顎変形症に対して当院矯正歯科や矯正歯科開業医および麻酔科と連携を行いデジタル機器をもとに綿密な治療計画を策定し、精確な顎矯正手術を行っています。その他の疾患につきましても、多数の専門医や指導医が在籍し、それぞれの治療にあたります。

■ 診療体制

日本口腔外科学会認定医(5名)・専門医(6名)・指導医(4名)、日本口腔科学会認定医(3名)・指導医(2名)、日本顎関節学会

専門医・指導医(1名)、日本がん治療認定機構がん治療認定医(歯科口腔外科)(3名)を含む約25名で診療を行っています。

■ 診療方針

患者さんの健康を第一に考え、多職種連携・チーム医療を推進し、丁寧なインフォームド・コンセントを重視して、安全で安心な高度な医療の提供を常に心がけています。

■ 対象疾患

親知らず、口腔粘膜疾患、口腔がん、顎変形症、良性腫瘍・嚢胞・外傷・炎症、顎関節疾患、インプラント前治療、スポーツ歯科(マウスガードの作製)、ドライマウス

■ 主な検査

唾液量検査、味覚検査、精密触覚機能検査、生検など

■ 学会施設認定

- 公益社団法人日本口腔外科学会ほか多数

矯正歯科

学童期以降の幅広い年齢層を対象とした歯列矯正を専門に行っています。矯正治療への不安を少しでも減らすように、丁寧なカウンセリングと検査結果の詳細な検討を行い、治療効果の得られやすいスタンダードな装置を用いた治療を心掛けています。また、治療結果に不安が残るアライナー型矯正装置は使用せず、精密なワイヤー屈曲技術が求められるマルチブラケット装置を用い、より確実な治療結果を追求しています。



科長 玉置 幸雄



矯正歯科外来の診察風景

■ 得意分野

通常では治療困難な歯列不正を中心とした矯正治療を行っています。小児期の反対咬合や上顎前突などの歯列不正にも積極的に対応しています。

■ 診療体制

矯正歯科外来を中心とした診療で担当医制です。
[初診]月曜～金曜:9:00～16:30(最終受付)、土曜:9:00～11:00(最終受付)
予約制で紹介状なしでも初診受診可能(※転院を除く)ですが、検査や治療は平日の時間帯です。

■ 診療方針

- ◆丁寧なカウンセリング
初診カウンセリングは、日本矯正歯科学会の認定医・指導医資格のスタッフが時間をかけて行います。
- ◆多角的な検査と検討
検査では、歯並びや顎顔面骨格の形態分析、成長分析、必要に応じてマルチブラケット治療後の歯列予測などを行い多角的に診断し治療方針を検討します。検査後の全症例は、局内検討会で詳細に検討され科長で最終確認し、総合的な治療方針をリスクも含め十分ご説明します。
- ◆口腔のQOLの向上を目指した矯正治療
スタンダードで確実な治療効果が見込める装置を優先的に使用

します。その他、口腔外科と連携した顎変形症治療、形成外科と連携した口唇口蓋裂治療を積極的に行っております。

■ 対象疾患

反対咬合(下顎前突)、上顎前突、叢生(ガタガタ、八重歯)、開咬・過蓋咬合、埋伏犬歯の開窓後牽引誘導、重度反対咬合や顔面非対称などの顎変形症、口唇口蓋裂に伴う歯列不正

■ 主な検査

頭部エックス線規格写真検査、埋伏犬歯・過剰歯の3次元歯科用コーンビームCT検査、顎運動検査、手部エックス線写真による成長分析、顎態模型と治療後歯列の予測模型の作製

■ 主な治療

成長期・成人の歯科矯正用アンカースクリューを用いたマルチブラケット治療、小児期の床装置などを用いた顎成長や歯の萌出誘導、上顎前方牽引装置など顎整形装置による骨格性成長誘導、外科的矯正治療(顎変形症)の術前・術後矯正治療、口唇口蓋裂治療など
※顎口腔機能診断施設、自立支援指定医療機関

■ 学会施設認定

- 日本矯正歯科学会認定基本研修機関・臨床研修機関

小児歯科

近年、小児歯科受診の『主訴』はう蝕からさまざまな疾患へとシフトしています。う蝕治療が主であった25年前と比較すると、う蝕治療の割合は減り、外傷や過剰歯や粘液嚢胞の摘出、小帯切除など口腔外科的治療、そして咬合誘導に対する主訴の増加がみられています。小児歯科専門医療機関として、小児の口腔に関わる全ての領域への対応を心がけ、子ども達の全身の健康な成長発達に貢献できるよう日々診療にあたっております。



科長 岡 暁子



小児歯科外来

■ 得意分野

【小児一般歯科治療】地域診療所から依頼される不協力的な低年齢児が多く来院しています。行動変容を促しながら、外来診療を中心に子ども達に寄り添った診療を行っておりますが、症例によっては、専門機関として全身麻酔下での集中歯科治療を施行する場合があります。【口腔外科的疾患】過剰埋伏歯、顎骨腫瘍・嚢胞の抜去や摘出、小帯異常、唾液腺疾患への対応を行っています。口腔外科とも密接に連携しております。【乳歯早期喪失や永久歯の萌出障害への対応】乳歯列期、混合歯列期において、健全な永久歯列の完成を目標とした咬合誘導を行っています。Ⅱ期治療が必要な症例は、矯正歯科へとスムーズに移行できる体制を整えております。

■ 診療体制

診療は担当医制で行っております。教員は全員が日本小児歯科学会小児歯科専門医であり、うち、3名は専門医指導医です。新患として来院される患者さんは、すべて専門医指導医とのカンファレンスによって治療方針が決定されます。診察の待ち時間を可能な限りゼロに近づけ、子ども達、保護者のストレスを軽減するために予約制としております。紹介状の持参が無い場合でも初診からご予約いただけます。

■ 診療方針

1. エビデンスにもとづいた診断および治療計画の立案

週に1度のカンファレンスを通して、客観的な診断に基づいた、適正な治療計画の立案を行います。

2. 子ども達、そして保護者に対する十分な説明と配慮
保護者だけでなく、子ども達本人にも治療の必要性を丁寧に説明し、治療に対する不安をできるだけ減らすことを心がけております。
3. 病診連携を充実させ、子ども達の口腔管理の継続を実現
専門的な処置が終了した場合は、地域診療所との連携ネットワークを通して、子ども達と保護者の負担を軽減しながら、成長発達を促していけるよう地域包括型医療へ貢献していきたいと考えております。

■ 対象疾患

う蝕(特に低年齢・不協力的児への対応)・顎骨腫瘍および嚢胞・口腔軟組織疾患・乳歯早期喪失および永久歯萌出障害・口腔機能発達不全症など

■ 主な治療

う蝕予防・治療および健診・咬合誘導(噛み合わせの治療)・外来小手術(外科的処置)・筋機能訓練・小児スペシャルニーズへの対応

■ 学会施設認定

- 日本小児歯科学会認定指導施設 ●日本小児口腔外科学会認定指導施設

小児歯科・小児口腔外傷センター

近年、小児の歯の外傷は顕著に増加しています。我々が行った実態調査でも乳歯・永久歯ともに外傷を主訴に来院する小児は増加傾向にあり、現在年間100名以上来院しています。歯の外傷は予測できないことから、2018年10月に発足した、小児口腔外傷センターでは予約外、時間外においても小児外傷歯に対して診療を行っています。受傷様式によって、顎骨骨折や軟組織損傷などの急性期は口腔外科医が中心となって対応し、歯内療法、咬合管理等の慢性期に移行してからは、小児歯科、さらには歯内治療科への転科といった適切な専門診療科が連携して治療するというシステムを構築しております。

■得意分野

乳歯・幼若永久歯の外傷への対応 軟組織裂傷等への対応

■診療体制

急患として来院された場合は、急患当番医が担当となります。過去の受傷についてのご相談は、ご予約いただいたほうがスムーズに診察へ移行できます。また、前医で撮影されたエックス線などの検査資料を持参していただくことも可能です。

■診療方針

緊急時でも的確な検査を行い診断し、長期的な視野で治療



センター長 岡 暁子



小児口腔外傷センターロゴ

方針を決定する

永久歯については、歯を保存することを第一にさまざまな角度から治療方針を決定する
症状および予後についての丁寧な説明を行う

■対象疾患

概ね0～15歳までの小児の口腔外傷を対象としています。

■主な検査

口内法、パノラマエックス線撮影 歯科用コンビームCT
電気歯髓診断など

■主な治療

歯の再植・固定 歯内療法、軟組織縫合、長期的な経過フォロー

■学会施設認定

- 日本外傷歯学会認定指導施設

口腔医療センター

口腔医療センターは、「口腔医学」の理念に基づき口腔の健康を通して全身の健康を守る歯科医療を実践するための診療施設です。博多駅前という交通の利便性を生かし、各種講習会の開催を通して歯科医療従事者の生涯学習の拠点としての役割も担っています。



センター長 泉 利雄



口腔医療センター外観

■得意分野

口腔外科、口腔インプラント、歯周病、審美的歯冠修復、欠損部補綴、歯内治療、口臭検査、ホワイトニング、睡眠時無呼吸症候群に対するマウスピース作製

■診療体制

スタッフは歯科医師10名(教授3名、准教授1名、講師5名、助教1名)、歯科衛生士10名、歯科技工士1名;日本歯周病学会 歯周病専門医・指導医、日本歯科保存学会 保存治療専門医・指導医、日本顎顔面補綴学会 認定医 日本補綴歯科学会 専門医・指導医、日本顎顔面インプラント学会 認定指導医、日本口腔外科学会 専門医・指導医、等の有資格者です。

■診療方針

患者さんが一つの診療室で総合的に処置を受けるため、大学病院のように処置ごとに診療科を変える必要がなく、治

療を計画的・効率的に進めることができるという利点があります。また、研修医の教育や、歯科衛生士、歯科技工士との多職種連携にも力を入れています。

■臨床実績

年間手術症例数

2021年1月～12月;抜歯の実績 2207例

普通抜歯 703例 難抜歯 272例 埋伏歯抜歯 1232例
(下顎難抜歯937例を含む)

■学会施設認定

- 日本歯周病学会 歯周病専門医研修施設
- 日本補綴歯科学会 専門医研修施設

障害者歯科

脳性麻痺等の身体障害、自閉スペクトラム症等の発達障害、知的障害、精神障害を伴う患者さんを対象に専門的歯科治療を行っています。とくに、自閉スペクトラム症の患者さんに歯科治療を受け入れてもらうための取り組みに力を入れています。また、当初必要な治療を行うだけでなく、継続的な口腔管理によって長期にわたり口腔の健康を維持していくことも重視しています。



科長 小島 寛



診察室

■ 得意分野

知的障害や自閉スペクトラム症のほか、脳性麻痺等の身体障害を伴う患者さんの歯科診療への導入から治療を行うにあたり、障害の特性に合わせた心理的対応や姿勢への配慮等を高い専門性をもって行っています。とくに心理的対応では、たとえ当初の歯科治療においては全身麻酔を必要としたケースであっても、その後歯科診療への拒絶をなくし、通常診療に移行できるよう取り組んでいます。身体抑制具を用いることはほとんどありません。

■ 診療体制

日本障害者歯科学会認定医の資格を有しているか、それを目指している歯科医師が診療にあたります。また、歯科衛生士は障害者歯科診療の経験が豊富です。全身麻酔下歯科治療は週1例、静脈内鎮静法下歯科治療は週数例の予約枠を設けています。新患は随時受け付けていますが、電話で当科に直接予約をしていただければ待ち時間なく対応できます。

■ 診療方針

生涯にわたる口腔の健康管理を達成するためには、全身麻酔や静脈内鎮静法に頼らなくても通常の外来通院が可能になることが非常に重要です。そのためには、歯科診療への心理的拒絶をなくす必要があります。そこで、行動心理学の知見を応用した行動変容への取り組みにもっとも力を注いでいます。

■ 対象疾患

- 身体障害(視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、脳性麻痺等)
- 知的障害(ダウン症候群ほか各種症候群・疾患を含む)
- 発達障害(自閉スペクトラム症等)
- 精神障害(統合失調症やパニック障害等)

■ 学会施設認定

- 日本障害者歯科学会

口腔放射線診断科

口腔放射線診断科は最新の診断機器を用いて、歯だけでなく、歯肉、顎骨、顎関節、舌、頬粘膜など口腔を1つの単位として総合的な検査と診断を行っています。撮影時には検査目的や方法などをお伝えし、検査の不安を取り除くように心がけています。また、画像診断は治療の入り口であるため、検査後の診断結果が正確かつ早急に依頼医に届くように、積極的に学会や勉強会に参加して日々研鑽を積んでいます。



科長 香川 豊宏



診断風景

■ 得意分野

口腔領域に留まらず、頸部、副鼻腔など顎顔面部の疾患を診断しています。

■ 診療体制

口腔放射線診断科は一般的なエックス線撮影をはじめ、CT、MRI、超音波装置など、最新の医療機器を備えています。これらの機器を用いて顎顔面部の画像検査を行います。検査後はすべての検査に対して専門医の資格を持った歯科放射線科医が診断レポートを作成しています。また、他の病院から依頼された種々の検査や画像診断も行っています。現在、歯科放射線学会の専門医が3名常勤で勤務しております。

■ 診療方針

1つの疾患でも患者さんごとに部位や大きさ、性状は異なります。そのため、依頼された検査をそのままこなすのではなく、症状

や部位によって依頼医と相談しながら撮影方向や被曝線量を考慮し、さまざまなカスタマイズをしています。患者さんごとにオーダーメイド検査を行い、正確な診断を行うようにしています。

■ 対象疾患

口腔領域に発生した嚢胞、腫瘍、骨折、系統疾患など

■ 主な検査

口内法、パノラマエックス線撮影法、頭部エックス線規格撮影、頭部一般撮影、歯科用コンビームCT、全身用CT、MRI、超音波検査

■ 学会施設認定

- NPO 法人日本歯科放射線学会

歯科麻酔科

手術や歯科治療のための全身麻酔や通常では困難な歯科治療のために精神鎮静法を用いた管理を行っています。さらに顎顔面領域の痛みや麻痺に対してペインクリニック診療を行っています。



科長 池田 水子



精神鎮静法

得意分野

手術を受ける患者さんには丁寧に説明を行うとともに、全身状態に応じた麻酔法、麻酔管理法を行っています。インプラントなど比較的大きな外来手術、高血圧や狭心症などを合併する患者さんの歯科治療、あるいは歯科治療に対する恐怖や嘔吐反射の強い患者さんの歯科治療に対し精神鎮静法を行っています。精神鎮静法は静脈麻酔薬であるプロポフォールを使用した静脈内鎮静法を行っています。投与中の血中濃度や覚醒までの時間を推定することも可能になり、質の高い鎮静レベルが得られるようになりました。ペインクリニックでは三叉神経ニューロパチー、三叉神経痛、顔面神経麻痺、など顎顔面領域を中心とした疼痛性疾患や麻痺性疾患の治療を行っています。星状神経節ブロック、近赤外線照射やキセノン光照射による理学療法および薬物療法を行っています。

診療体制

日本歯科麻酔学会指導医、日本歯科麻酔学会認定専門医・認定医を中心に安全な全身麻酔管理や精神鎮静法を行っています。精神鎮静法は火曜日、木曜日、金曜日に行っています。さらにペインクリニック診療も行っております。

対象疾患

全身麻酔は口腔外科手術や局所麻酔だけでは治療が困難な小児歯科や障害者歯科の患者さんの歯科治療が対象です。精神鎮静法は歯科治療恐怖症や異常絞扼反射、高血圧や心疾患を有するなど通常の歯科治療が困難な患者さんが対象です。ペインクリニックは三叉神経痛などの顎顔面領域の痛みや歯科治療後のしびれが対象です。

主な治療

全身麻酔は吸入麻酔法や全静脈麻酔法を行っています。手術室には最新の患者監視装置を備えており、安全な麻酔管理を行っています。必要な場合は侵襲的なモニタリングも可能です。精神鎮静法は主に静脈内鎮静法を行っています。ペインクリニックでは星状神経節ブロックや薬物療法、光線治療を行っています。

学会施設認定

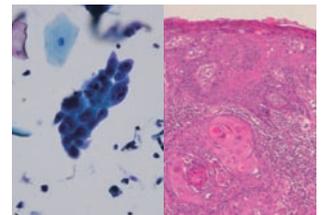
- 日本歯科麻酔学会指導施設

口腔病理診断科

口腔病理診断科では、質の高い病理診断を行うことで患者さんによりよい医療を享受していただくために、各診療科とも密に連携した診断業務にあたっています。



副科長 大野 純



口腔癌(扁平上皮癌)の細胞診(左)と組織像(右)

概要

病理診断は、臨床上異常を指摘された患者身体の病変部が具体的にどのような変化を起こしているかの質的診断(例えば口腔癌などの癌病変)および活動性評価(例えば癌では浸潤度、転移の有無など)を生検材料などの実際の組織・細胞上で判断し最終診断を下すことで、臨床における治療の方向性を決めるうえでの重要な情報を提供することを目的としています。また、術中迅速診断では病理診断の情報を術者にその場で提供することで、その場に即した手術の方向性を決めるうえでの情報を提供するなど重要な業務を担っています。

得意分野

病理および口腔病理専門医が相互にダブルチェック体制を組んで正確、迅速な診断を行うよう心がけています。特に、口腔癌、歯源性腫瘍の診断病理に力を入れています。診療科との症例検討カンファレンスを行い他科専門医との意見交換も重

視しています。また、近年になり口腔癌の侵襲の少ないスクリーニング検査として口腔細胞診が普及してきました。当院においても口腔癌の早期発見のために細胞診にも力を入れています。

診療体制

スタッフ4名(以下の学会専門医・認定医)が診療にあたっています。

日本病理学会専門医・指導医(1名)、日本病理学会認定口腔病理専門医・研修指導医(2名)、日本臨床細胞学会認定細胞診専門歯科医(1名)、日本呼吸器学会専門医(1名)、死体解剖資格認定医(3名)、日本障害者歯科学会・認定医(1名)

対象疾患

歯科口腔領域の疾患を対象に、歯科の各診療科から提出された組織・細胞検体および術中迅速標本に対して病理診断を行っています。

| 診療部門 | Clinical Division |

医科診療部門

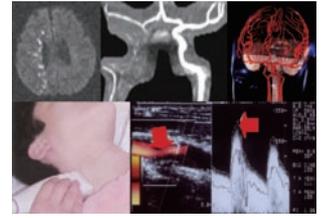
Medical Clinics

内科・脳血管・循環器・腎臓・糖尿病内科

内科全般を診療していますが、特に脳血管障害、循環器疾患、糖尿病、腎疾患を専門としており、緊急入院にも対応しています。糖尿病については、周術期の合併症評価やコントロール目的の入院に加えて、教育入院も行っています。睡眠時無呼吸症候群の診断と治療はPolysomnography 検査入院に対応しており、骨塩定量(DEXA法)による骨粗鬆症の診療や禁煙外来も行っていきます。また、耳鼻科と共同して嚥下障害の精密検査・治療を進めており、老人保健施設や指定介護老人福祉施設(特養)を関連施設として有することで、超高齢化社会に対応した連携医療に取り組んでいます。



科長 大星 博明



頭部MR・頸部血管エコーによる脳梗塞の検査

■ 対象疾患

- 脳血管障害: 脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、頸動脈狭窄・閉塞症など
- 循環器疾患: 治療抵抗性高血圧、虚血性心疾患、急性および慢性心不全など
- 糖尿病: 1型糖尿病、2型糖尿病、二次性糖尿病など
- 腎疾患: 無症候性血尿、蛋白尿、腎炎、電解質異常、急性および慢性腎不全など

■ アピール・得意分野

- 頭部MRIやCT、超音波検査などを迅速に行う体制が整っています。
- 糖尿病の治療・教育入院を行っています。

- 常勤の内科系学会認定の各種専門医が、それぞれの専門的診療にたずさわっています。
- 高齢者が有する複数の疾患に対して、包括的な診療を行っています。

■ 学会施設認定

- 日本老年医学会 ● 日本高血圧学会

■ 学会認定専門医

- 日本内科学会 ● 日本脳卒中学会
- 日本神経学会 ● 日本循環器学会
- 日本糖尿病学会 ● 日本腎臓病学会
- 日本透析学会 ● 日本老年医学会

呼吸器内科

呼吸器は疾患の種類が多く、主な疾患としては気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、急性気管支炎、肺炎、間質性肺疾患、肺がんなどがあります。これらの疾患を正しく診断し、適切な内科的治療を提供するのが呼吸器内科の役目です。



教授 松元 幸一郎



診療で使用する吸入薬

■ 得意分野

呼吸器疾患の治療には吸入薬を使用することが多く、多種類の吸入薬があります。各疾患に応じた吸入薬を選択し、薬剤師と連携して吸入方法を丁寧に指導しています。

【気管支喘息】

子どもから高齢者まで幅広い年齢層で生じ、息苦しい発作を繰り返します。アレルギーや大気汚染(PM2.5や黄砂、光化学スモッグ)、気候変化などが発作の引き金になります。定期的な吸入薬の使用により改善が期待できます。

【慢性閉塞性肺疾患(COPD)】

喫煙によって次第に肺の構造が崩れ、酸素を取り入れる働きが低下します。同時に息切れが進行し、日常生活にも支障をきたすようになります。禁煙と定期的な吸入薬の使用により改善が期待できます。

【慢性的咳】

2カ月以上続く咳を慢性咳がいそうと呼びます。気管支喘息や

COPD、間質性肺炎、肺がん、肺結核などが咳の原因となりますが、明らかな原因が特定できない慢性咳嗽もあります。丁寧な診療で原因を探して、咳が軽減できるように尽力いたします。

■ 診療体制

初診・再診ともに火曜日、水曜日の午前中に松元が担当いたします。

■ 主な対象疾患

気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、気管支炎、肺炎、間質性肺疾患、慢性咳嗽

■ 主な検査

胸部単純X線検査、CT、MRI、呼吸機能検査、喀痰検査、血液検査(白血球分画、IgE値、各種アレルギー検査)

心療内科

心療内科は「こころ」の面から「からだ」の症状を診る内科です。内科医としての技術を基礎に、さまざまな「こころ」や「からだ」の悩みを持っている患者さんのお話をお聴きして、心身両面からの治療を行っています。



科長 金光 芳郎



診療風景

■ 対象疾患

心療内科でみることの多い病気には、高血圧症、糖尿病、肥満などの生活習慣病、気管支喘息、胃十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、頭痛、自律神経失調症などがあります。これらの病気で、起こる原因やなかなか良くならない原因に、心理社会的要因やストレスが関係しているものを総称して「心身症」と呼びます。

■ アピール・得意分野

心療内科では、内科的な疾患を中心に診療していますが、一般の内科と違うところは、身体をみながら常に患者さんの心や社会生活の面に注意を向けていることです。精神科と違うところは、心と同時に身体に配慮していることです。長引く症状があってもそれがストレスからくるものであるとか、心理的な原因であるということは、本人自身はなかなか気が付かな

いものです。症状が長く続く場合、検査でははっきりした異常が見られない場合、多彩な症状が繰り返し出る場合などは、一度心療内科にご相談ください。当科においては、治療として、薬物療法に加えて、カウンセリング、自律訓練法、交流分析、認知行動療法、バイオフィードバック法などを行っています。

■ 診療体制

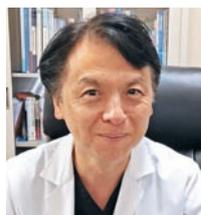
初診・再診は、いずれも完全予約制です。2名のスタッフが診療にあたっています。

■ 学会施設認定

- 日本心身医学会研修診療施設

外科・消化器科

食道、胃、小腸、大腸、肛門・肝臓、胆嚢、膵臓・乳腺の診療と手術に加えて、日本人の死因として最も多くなった“がん”に対する薬物治療（化学治療）を行っております。ほとんどの食道、胃、小腸、大腸、肛門・肝臓、胆嚢、膵臓に対する手術は体に優しい内視鏡下手術を行っており短期間の入院で早期の社会復帰を目指しております。



科長 池田 哲夫



鏡視下手術風景

■ 得意分野

胃・小腸・大腸の内視鏡下手術は吻合まで全て腹腔内で行う完全腹腔鏡下手術を行っております。鼠径ヘルニアは腹膜を開くことなく、再発の可能性が限りなくゼロに近いTEP法(完全腹腔外修復法)を行っています。小さな肝腫瘍に対しては完全腹腔鏡下肝切除を行い、胆嚢摘出術にはより低侵襲な細径鉗子を用いています。乳がん手術は「無用な切除、郭清」は行わない方針で当院では、ICG法による腋窩リンパ節生検を行い、術中迅速病理診断にて転移を認めなかった症例では腋窩リンパ節郭清を省略し、リンパ浮腫等の合併症の減少に努めています。痔疾患に対しては通常の手術に加えてモリコーンやジオン注射法(四段階注射法)を導入し痛みの少ない治療を目指しております。食道がん、胃がん、大腸・直腸がん、膵がん、乳がんに対する、術前化学治療、術後の補助化学治療、手術不能進行・再発がんに対する化学治療を外来および入院で行っています。

■ 対象疾患

消化管疾患:食道がん、胃がん、大腸・直腸がん、小腸腫瘍
肝胆膵疾患:胆石症、胆のうポリープ、肝腫瘍、肝がん、膵がん、膵嚢胞性腫瘍、胆道がん
ヘルニア:鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア、食道裂孔ヘルニア
乳腺疾患:乳がん、乳腺炎症性疾患
肛門疾患:痔核、裂肛、肛門周囲膿瘍、痔ろう、脱肛
その他:尿管管遺残症

■ 学会資格

【学会専門医】

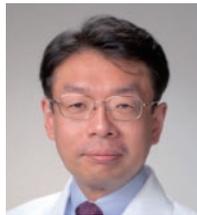
日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝・胆・膵外科学会高度技能指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本乳がん学会乳腺専門医、マンモグラフィ読影医

【学会施設認定】

日本外科学会関連施設、日本消化器外科学会関連施設、日本大腸肛門病学会関連施設、外科周術期感染管理教育施設

形成外科・美容外科

形成外科では老化や外傷、治りの悪い傷により生じた異常、変形、不満足な状態をレーザー治療や手術、その他さまざまな方法で本来あるべき人体の“形”に整えることを主な目的としています。



科長 萩家 康弘



レーザー治療の様子



レーザー外来小手術室

■ 得意分野

- 1) 老化にともなう変形に対する治療(抗加齢美容医療)
- 2) 「やけど」や「顔のケガ」のような外傷の治療
- 3) 褥瘡や治りの悪い傷(難治性潰瘍)など創傷管理・治療
- 4) 美容医療

■ 診療体制

初再診とも月曜日から金曜日まで完全予約制で診療しています。

■ 診療方針

患者さんの生活の質を落とさないように最も適した治療について十分に時間をかけて説明を適切に行えるように完全予約制としています。美容医療の中には「わきが」や眼瞼下垂のように保険診療が適用されるものもあるのでご遠慮なくお問い合わせください。

■ 主な治療

ボトックス注射、ヒアルロン酸・ハイドロキシアパタイト注射、内服療法、外用療法、レーザー治療、しわとり手術、眼瞼下垂・二重瞼手術、きずあとの瘢痕形成術
皮膚悪性腫瘍・良性腫瘍に対する手術、局所皮弁・植皮術による再建手術
難治性皮膚潰瘍に対する陰圧閉鎖療法
わきが手術・陥入爪治療

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科は、首から上の領域で、頭髪・脳・眼・頸椎などを除いた部位の疾患を担当しています。扱う疾患は、中耳炎・副鼻腔炎・扁桃炎などの炎症性の疾患から、鼻副鼻腔、咽喉頭、頸部などに発生する腫瘍、外傷、先天異常など種々の病気に対しても投薬や外科的治療で対応しています。



科長 山野 貴史



嚥下造影検査

■ 得意分野

病院の特性上、歯科からの紹介の占める割合が他施設と比較して高く、摂食嚥下障害、音声構音障害、歯性上顎洞炎を含めた鼻副鼻腔疾患、耳下腺・顎下腺などの唾液腺疾患など、境界領域疾患の対応に力を入れています。

■ 診療体制

2021年6月より常勤3名体制(うち専門医2名)となっています。さらに当院の言語聴覚士は2名とも耳鼻咽喉科所属であり、診療科としては5名のチームとなります。

■ 診療方針

みみ、はな、のどすべての耳鼻咽喉科領域の疾患に対して、急性期の炎症疾患から慢性の疾患に対して診療にあたります。特に境界領域の疾患に対しては、他科と協力して治療を行うように心がけています。

■ 主な検査

嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、喉頭ストロボスコープ、純音聴力検査、語音聴力検査、補聴器フィッティング、平衡機能検査、頭頸部腫瘍に対するエコー、CT、MRI

■ 主な治療

摂食嚥下障害に対するリハビリテーションおよび嚥下機能改善手術などの外科的治療、歯性上顎洞炎や歯科インプラントトラブルに対する内視鏡下鼻副鼻腔手術、いびきに対する口蓋扁桃摘出および軟口蓋形成術、唾石に対する内視鏡下での摘出、耳下腺腫瘍、甲状腺腫瘍に対する神経モニター下での外科的治療

■ 学会施設認定

- 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設

摂食嚥下・言語センター（ことばと飲み込みのケアセンター）

当センターは当院の特徴である、医科と歯科の連携を活かし、さらにそれ以外の医療スタッフを含めての多職種連携でのチームでことばと飲み込みの治療をします。



センター長 山野 貴史



多職種ミールラウンドの様子

■ 得意分野

摂食嚥下障害例に対して、全例に嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査の評価で、治療方針を決定します。軽症例に対しては、外来通院での治療を積極的に取り組んでいます。近年有効性が報告されている、ダブルバルーンを使用したバルーン訓練や干渉波刺激装置も導入しています。リハビリテーションのみでは効果の乏しい重症例に関しては、嚥下機能改善手術など外科的治療にも対応しています。関連施設への多職種でのミールラウンドも行っています。

■ 診療体制

嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、外科的治療(耳鼻咽喉科医)、リハビリテーション(言語聴覚士)、口腔のケア(歯科医師、歯科衛生士)、食事介助(看護師)、食形態の指導(管理栄養士)などで対応しています。

■ 治療方針

病院の指針である口腔医学のもと、多職種連携での治療に心がけています。

■ 対象疾患

脳血管障害やパーキンソン病など変性疾患に伴う嚥下障害、頭頸部癌や食道癌術後の嚥下障害、声帯麻痺やポリープによる音声障害、小児の構音障害、高齢者の嚥下性肺炎

■ 主な検査

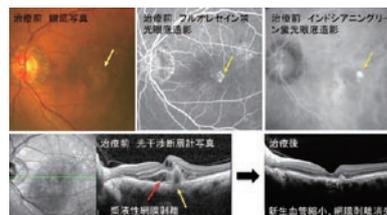
嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、喉頭ストボスコピー

眼科

白内障・緑内障・糖尿病網膜症・網膜剥離などの眼疾患全般について、最新の検査・治療機器を用いて診断・治療を行っています。特に加齢黄斑変性をはじめとする眼内血管新生性疾患については最新の手法を用いた診断、治療が行える体制を整えております。また、従来通り、ぶどう膜炎などの眼科領域の炎症性疾患の診断と治療も行っています。



科長 大島 裕司



滲出型加齢黄斑変性に対して抗VEGF療法を行った症例

■ 対象疾患

- 白内障
- 緑内障の薬物療法および手術治療
- 糖尿病網膜症、網膜血管閉塞症に対する薬物療法、レーザー治療、硝子体手術治療
- 加齢黄斑変性、近視性脈絡膜新生血管、網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫に対する診断と薬物療法
- 黄斑部疾患の診断と治療
- 黄斑前膜、黄斑円孔、網膜剥離に対する硝子体手術治療
- ぶどう膜炎に対する診断と薬物療法
- 眼瞼下垂、内反症に対する手術療法

■ 得意分野

白内障手術は日帰り手術か入院手術を患者さんの状況に合わせて行っています。全身麻酔での手術や1週間程度の入院

での両眼手術も可能です。緑内障手術や網膜硝子体手術(血管新生緑内障や増殖性硝子体網膜症など重症例を含む)は入院で行っています。新たに網膜硝子体疾患の診療に力を入れ、多数の検査機器を駆使したmultimodal imagingの手法を用いてより正確な診断、治療が行える体制を整えました。特に滲出型加齢黄斑変性をはじめとする抗血管新生療法などの網脈絡膜疾患の治療は、患者さんの背景を考慮し、より長期に視力維持ができるような個別化治療をめざしております。主な検査装置として、走査型超広角眼底撮影装置、HRA(レーザー走査型眼底撮影装置)、光干渉断層撮影装置(OCT)、超音波断層撮影装置、レーザー眼軸長測定装置、角膜形状解析装置、角膜内皮撮影装置、自動視野計などがあります。

■ 学会施設認定

- 日本眼科学会

小児科・神経小児科

小児の一般診療に加えて、小児神経疾患を対象に専門診療を行っています。神経小児科では、けいれんや意識消失を起こした小児はもちろん、運動・知能・感覚・行動または言葉の障害など脳、神経、筋に何らかの異常がある小児の診断、治療、指導を行っています。また、予防接種センターと連携し、小児の予防接種や接種後の副反応(コッホ現象など)対応も行っています。



科長 鳥巢 浩幸



小児科外来の待合

■ 得意分野

プライマリ・ケアを中心とした小児診療に加えて、小児神経疾患(てんかん、神経発達症など)の診療に力を入れています。

■ 診療体制

一般外来(平日午前):日本小児科学会専門医が担当します。
神経・発達外来(完全予約制):日本小児神経学会専門医が担当します。

■ 診療方針

1. 子どもと家族の権利を尊重し、十分な説明を行い納得いただける小児医療に取り組みます。
2. 子どもたちへの“思いやり”を基本に、安全・安心な医療を提供します。
3. 子どもたちの成長・発達に応じた質の高い医療をめざします。
4. 地域や院内他部門との緊密な連携をはかり、信頼が得られる小児医療に努めます。

■ 対象疾患

小児疾患一般、小児の発作性疾患(熱性けいれん、てんかんなど)、小児の発達関連疾患(知的発達症、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症など)

■ 主な検査

神経放射線学的検査:CT、3T-MRI
脳波検査
心理検査:WISC-IV、田中ビネー知能検査V、Vineland-II適応行動尺度、PARS-TRなど

■ 主な治療

通常診療に加え、臨床心理士による心理カウンセリングを実施しています。

■ 学会施設認定

- 日本小児神経学会専門医研修関連施設

整形外科

四肢体幹の運動器疾患に対して、質の高い治療を行うとともに、日常診療全般において安全に留意した治療を行います。手術は基本的に入院にて行います。日帰り入院での手術も行っています。運動器リハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。



科長 西尾 淳



大腿骨頸部骨折 術前Xray



大腿骨頸部骨折 術後Xray

■ 対象疾患

運動器疾患全般に対応します。骨折や捻挫などの外傷性疾患、スポーツ障害、末梢神経障害、変形性関節症、変形性脊椎症、骨粗鬆症、リウマチ性疾患、骨軟部腫瘍に対して、診断・治療を行います。

■ 診療体制

常勤3名、非常勤1名の体制です。初診は月・火・水・木・土曜の午前で、平日の午後は完全予約制です。金曜は手術日となっています。土曜は交代制で診療にあたっています。

■ 得意分野

整形外科全般ですが、主として四肢に発生する腫瘍性疾患です。軟部腫瘍は多数の組織型が存在するため、非専門施設では診断に時間を要したり、結果として不適切な治療が行われたりすることがあります。当院では、画像診断医と緊密に連携し、正確な診断を心がけています。また骨粗鬆症の

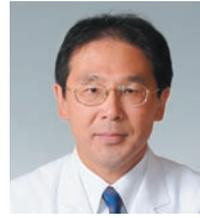
患者さんに対して、歯科と連携して包括的な診療を行っています。さらに、骨粗鬆症関連骨折(大腿骨頸部・転子部骨折、橈骨遠位部骨折)の手術加療も行っています。

■ 以下の学会専門医・認定医がいます

- 日本専門医機構認定整形外科専門医
- 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
- 日本整形外科学会認定スポーツ医
- 日本リウマチ学会リウマチ専門医
- 日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医

リハビリテーション科

リハビリテーション科では、各診療科と協力して、疾病により障害が残存、機能が低下した患者さんに対して、症状に応じたリハビリテーション診療を提供し、医療スタッフが一体となって機能回復や社会復帰をサポートしています。スタッフは、理学療法士3名、作業療法士1名で、それぞれ職能を活かし良質で安全なリハビリテーションを実践しています。施設基準は運動器Ⅰ、脳血管疾患Ⅱ、廃用症候群Ⅱ、呼吸器Ⅱ、がんの5種を取得し、外来・入院患者さんへリハビリテーション医療を提供しています。



科長 西尾 淳



リハビリテーション室

■対象疾患

外来では、主に運動器に対するリハビリテーションを行っています。特に骨折や捻挫などの外傷性疾患や、肩の運動制限、腰痛、膝関節痛に対して、運動療法や物理療法を行っています。入院では、運動器疾患はもちろん、内科や外科、歯科の患者さんに対しても主治医の指示のもと、スタッフ間で連携を取り、動作練習や筋力訓練などを施行して機能回復を目指しています。

■アピール

定期的に多職種でのカンファレンスを行い、安全に配慮したリハビリテーションを通じて、さまざまな疾患などにより低下した機能と能力を回復し、残存した障害を克服できるように努めています。

また以下の資格を有するセラピストが在籍しております。

- 日本理学療法士協会 運動器認定理学療法士
- 日本理学療法士協会 介護予防認定理学療法士
- 日本理学療法士協会 フレイル対策推進マネジャー
- 日本理学療法士協会 介護予防推進リーダー
- 日本理学療法士協会 地域包括ケア会議推進リーダー
- 福祉住環境コーディネーター2級
- 認知症ケア指導管理士(初級)

皮膚科

皮膚疾患全般に対応します。皮膚腫瘍の生検や外科的切除、病理診断、画像診断を行っています。歯科と連携し、歯科金属アレルギーや口腔アレルギー症候群、天疱瘡や類天疱瘡の精査・治療を行っています。大学病院や地域医療支援病院と連携して最新・最良の診断と治療に努めています。



科長 古村 南夫



Qスイッチヤグレーザー
設置機器

■対象疾患

皮膚がんやヘルペス感染症(顔面帯状疱疹、ハント症候群、カポジ水痘様発疹症)、蜂窩織炎、重症薬疹の入院治療を行っています。乾癬のアプレミラスト内服、アトピー性皮膚炎のデュピルマブ注射やバリシチニブ内服、ジファミラスト外用による治療が可能です。乾癬生物学的製剤使用施設の承認申請も準備中です。美容皮膚科・皮膚レーザー治療では、炭酸ガスレーザーおよびQスイッチヤグレーザーによるしみやいぼの除去、肝斑のレーザートーンングをはじめ、ケミカルピーリング、美白外用薬などの自由診療も行っております。男性型脱毛症(AGA)のデュタステリドおよびフィナステリド処方、陥入爪のフェノール法手術や巻き爪のワイヤー矯正が可能です。

■アピール・得意分野

歯科金属アレルギーのパッチテスト検査(要電話予約)が可能です。口腔アレルギー症候群・ラテックスフルーツ症候群や、蕁麻疹・アナフィラキシーの診断と精査を福岡病院アレルギーセンターと連携して行っています。難治性口内炎をきたす自己免疫性水疱症(天疱瘡、粘膜類天疱瘡)の自己抗体検査や蛍光抗体法による精査、久留米大学皮膚科と連携した詳細な血清免疫学的検査が可能です。

■学会専門医・認定医

日本皮膚科学会認定:皮膚科専門医3名、美容皮膚科・レーザー指導専門医1名

内視鏡センター

上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡と胆道内視鏡検査および治療を行っています。特に近年日本でも増加した、大腸のポリープに対する内視鏡の治療は年々増加しております。急な痛みや出血の症状が出現し不安な患者さんには来院当日の緊急内視鏡検査も積極的に行っております。以前に内視鏡検査で「とても辛い」思いをした方、内視鏡が動くたびに嘔吐反射が頻回に起きてしまう方、内視鏡検査に対する恐怖心が強く検査を受ける決心がつかない方などには、鎮静下内視鏡を薦めています。鎮静化内視鏡は、通常の咽頭麻酔(のどの麻酔)の他に、点滴から鎮静剤を投与して「ウトウトしている」状態で内視鏡検査を行うものです。全身麻酔ではありません。心電図・酸素飽和度・血圧・脈拍をモニターしながら検査を安全に行います。

■内視鏡室・装備器具

検査室3室に待合室とトイレ完備の準備室(個室)5室、リカバリールームを用意しています。
 内視鏡システム:CV-290、ELUXEO 7000システム、スパイグラスDS 胆管・膵管鏡システム、CV260
 上部消化管内視鏡:GIF-H290Z、RG-760Z、ダブルバルーン内視鏡 EI-580BT
 下部消化管内視鏡:CF-HQ290ZI、PCF-PQ260I、EC-L760ZP-VM
 膵・胆道内視鏡:JF-260V、コンベックス走査超音波内視鏡 EG-580UT、SpyScope™ DS II



センター長 池田 哲夫



食道のESD(粘膜下層切開剥離術)症例

■アピールポイント・得意分野

早期食道がん・早期胃がんに対しては拡大NBI、超音波内視鏡により適応と判断された病巣に対してはESDを施行しております。大腸内視鏡が受け辛い原因である前処置の煩雑さ、時間がかかる、痛い、を和らげる目的で食物繊維とヨーグルトによる前処置、自宅での下剤内服、水浸法を導入しております。発見されたポリープはできる限り同時にコールドポリペクトミー、EMRを行っております。大腸腫瘍に対しても適応と判断した病巣にはESDを行います。より安全なハイブリッドESDを第一に選択して行っております。胆道系の内視鏡はコンベックス走査超音波内視鏡、ERCP診断だけでなく胆道結石の採石治療および狭窄に対してチューブステント、メタリックステントの留置を行っております。肝内結石に対しては最新のスパイグラス DS 胆管・膵管鏡システム(SpyScope™ DS II)で観察下にEHL(電気水圧衝撃波胆管結石破碎)を駆使した採石を行っております。また、消化管再建後の症例にはダブルバルーン内視鏡を用いた診断と治療を行っております。

■学会資格

【学会専門医】日本消化器内視鏡学会専門医2名・指導医1名

放射線診断科

令和3年度より、医科歯科総合病院の放射線診断科には医科領域の常勤医として、福岡歯科大学診断・全身管理理学講座放射線診断学分野の川波が着任しました。現在は常勤医1名、非常勤医2名(福岡大学放射線科)の体制です。最新のマルチスライスCTや3テスラMRIはもちろん、胸腹部や整形外科領域の単純X線検査、消化管造影検査、マンモグラフィ、超音波検査などを含め、口腔画像診断領域以外の全ての画像検査について報告書作成を行っています。院内とはもちろん、院外との病診連携も積極的に行い、迅速な検査と報告書作成を行います。診療各科の安全で正確な診療の一助となれるよう、学会やカンファレンス、勉強会に日々積極的に参加し、診断レベルの維持向上のため研鑽も行っています。

■画像診断機器の種類

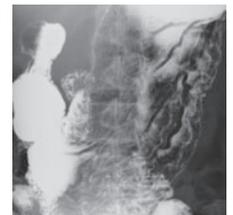
- 256列マルチスライスCT
- 3テスラMRI
- 骨塩定量(DEXA)
- マンモグラフィ
- 超音波検査
- X線造影
- 単純X線検査



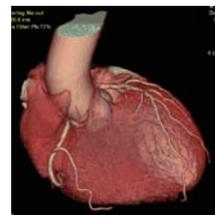
科長 川波 哲



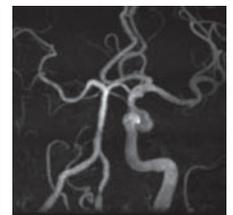
受付の様子



上部消化管造影



冠動脈CT



頭部MRA

■学会認定医・専門医

- 日本医学放射線学会放射線診断専門医
- 日本専門医機構放射線科専門医
- 日本医学放射線学会放射線診断指導医
- 日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影試験(A)
- 画像診断管理加算2取得

麻酔科（ペインクリニック）

手術や歯科治療のための全身麻酔や通常では困難な歯科治療のために精神鎮静法を用いた管理を行っています。顎顔面領域の痛みや麻痺に対してペインクリニック診療を行っています。

■ 得意分野

【全身麻酔管理】

口腔外科、障害者歯科、インプラント科、小児歯科、一般外科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、形成外科の手術の全身麻酔管理を年間615症例ほど行っています。口腔外科での外傷による急患手術や口腔癌切除、皮弁による再建を含む10数時間におよぶ長時間手術、小児や障害者の日帰り手術等における全身麻酔管理を行っています。手術や歯科治療に対して不安を抱く患者さんには丁寧に説明を行うとともに、全身状態に応じた麻酔管理法を行っています。

【精神鎮静法】

歯科治療恐怖症や異常絞扼反射などで通常の歯科治療が困難な患者さんに対しては精神鎮静法を行っています。

【顎顔面領域の疼痛治療】

三叉神経ニューロパチー、三叉神経痛、顔面神経麻痺など顎顔面領域を中心とした疼痛性疾患や麻痺性疾患の治療を行っています。治療法としては星状神経節ブロックやトリガーポイント注射、近赤外線照射や低周波治療などの理学療法および薬物療法などがあります。

■ 診療体制

日本麻酔科学会認定麻酔指導医・専門医、日本歯科麻酔学会認定専門医・認定医を中心に安全な全身麻酔管理を行っています。精神鎮静法は火曜日、



科長 池田 水子



星状神経節ブロック

木曜日、金曜日に行っています。ペインクリニックは医科疾患の診療もっておりますが予約制です。

■ 対象疾患

全身麻酔は、外科系手術および局所麻酔だけでは治療が困難な小児歯科や障害者歯科の歯科治療が対象です。精神鎮静法は、通常の歯科治療が困難な患者さんに対して行います。ペインクリニックでは各部位の痛みやしびれに対して神経ブロックや薬物療法、電気治療を行っています。

■ 主な治療

全身麻酔は吸入麻酔法や全静脈麻酔法を行い、必要に応じて硬膜外麻酔を併用しています。下半身の手術では脊椎麻酔と鎮静法を併用しています。精神鎮静法は主に静脈内鎮静法を行っています。ペインクリニックでは神経ブロックや薬物療法、光線治療を行っています。

■ 学会施設認定

- 日本歯科麻酔学会指導施設

病理診断科

病理診断科では、質の高い病理診断を行うことで患者さんによりよい医療を享受していただくために、各診療科とも密に連携した診断業務にあたっています。



副科長 大野 純



顕微鏡画像と連動したオンライン診断システム

■ 概要

病理診断は、臨床上異常を指摘された患者身体の病変部が具体的にどのような変化を起こしているかの質的診断(例えば口腔癌などの癌病変)および活動性評価(例えば癌では浸潤度、転移の有無など)を生検材料などの実際の組織・細胞上で判断し最終診断を下すことで、臨床における治療の方向性を決めるうえでの重要な情報を提供することを目的としています。また、術中迅速診断では病理診断の情報を術者にその場で提供することで、その場に即した手術の方向性を決めるうえでの情報を提供するなど重要な業務を担っています。

■ 得意分野

病理および口腔病理専門医が相互にダブルチェック体制を組んで正確、迅速な診断を行うよう心がけています。特に、口腔癌、歯原性腫瘍の診断病理に力を入れています。また、診

療科との症例検討カンファレンスを行い他科専門医との意見交換も重視しています。また、今後は外部医療機関との連携でオンライン診断システムの拡充にも努めていく予定です。

■ 診療体制

スタッフ4名(以下の学会専門医・認定医)が診療にあたっています。

日本病理学会専門医・指導医(1名)、日本病理学会認定口腔病理専門医・研修指導医(2名)、日本臨床細胞学会認定細胞診専門歯科医(1名)、日本呼吸器学会専門医(1名)、死体解剖資格認定医(3名)、日本障害者歯科学会・認定医(1名)

■ 対象疾患

医科・歯科領域のすべての疾患を対象に、医科・歯科の各診療科から提出された組織・細胞検体および術中迅速標本に対して病理診断を行っています。

歯科診療部門

内科診療部門

診療支援部門

中央診療施設

事務課

| 支援部門 | Medical support Division |

診療支援部門

Medical Support Division

看護部

看護部は、唯一の病棟で医科7科、歯科4科の診療科の入院患者に対応しています。平均在院日数7.2日と病床の回転率が高く、手術・検査等で小児から高齢者、認知症患者と幅広い患者さんを対象にし、医療チームの一員として安全で質の高い看護の提供を目指しています。



看護部長 松尾 佳代



新人看護師集合研修



重症個室での術後看護

■ 運営体制

診療支援部門副院長のもと、看護師長2名、看護師主任3名、看護師50名、看護補助者2名の合計57名です。病棟、外来、手術室・内視鏡センターの3部署に分かれており、病棟が50床1単位、医科・歯科の術後や施設からの高齢患者に対して10対1の看護を提供しています。外来は病院1階に内科、外科、整形外科、2階に眼科、耳鼻科、皮膚科、形成外科、心療内科、小児科、口腔外科を有し、看護を行っています。手術室・内視鏡センターでは、医科・歯科の手術や内視鏡の検査・処置を担当しています。

■ 看護理念

看護部の理念 「私たちは、互いを尊重し、安心と信頼に応える看護を提供します。」

基本方針

1. 患者さんに信頼される安全で安心な看護を提供します
 2. 看護の質の向上のために自己研鑽に努め、ともに学び成長します
 3. 看護の専門性を発揮し、多職種で協働してチーム医療を推進します
 4. 地域の医療・介護・福祉施設と連携し、患者さんの地域での生活を支えます
 5. 組織の一員として、積極的に病院経営に参画します
- 2022年度看護部は、①患者さんに安全な看護を提供する②意図的な人材育成③病院の経営目標にそった安定した経営への参画という目標を掲げて、常に向上心を持って活動しています。
- また、新人看護師を昨年の4名に続き今年は5名採用。看護学生実習も昨年より191名多く受け入れをしています。

歯科衛生士部

歯科衛生士部はやさしさと豊かな人間性を持ち、思いやりのある対応で患者さんに接し、医療チームの一員として歯科衛生士業務を提供します。



歯科衛生士長
手嶋 直美



部署別研修



訪問施設での口腔ケア

■ 運営体制

歯科衛生士部は、医科歯科総合病院(以下病院という)32名、口腔医療センター(以下センターという)11名合わせて43名勤務しており、歯科衛生士は病院では8つの診療科と手術室およびセンターに配属しています。今年度から歯科衛生士の能力開発を行うことを目的に新しい取り組みとして、病院の歯科衛生士部とセンターの歯科衛生士の一元化を図り、新採用者の一括と能力開発ローテーションを目的として相互の施設間で人事交流を行っています。

■ 運営方針

1. 温かく思いやりを持った対応で患者さんに接し、医療倫理の向上をめざします。
2. 歯学の高度医療に相応しい知識、技術、態度をもって歯科衛生士業務を遂行します。
3. 医療チームの一員として役割を果たし、地域医療との連携に努めます。
4. 歯科衛生士養成機関として臨床実習の質を高め、有能な歯科衛生士の育成に努めます。

■ 特色

- 1) さまざまな診療科において歯科診療補助・予防処置・保健指導等の業務を行いながら、乳幼児から高齢者まで生涯にわたってお口の機能の維持、向上を目的に口腔機能管理に取り組んでいます。
- 2) 2021年度における歯科衛生士専門業務件数は23,303件、福岡医療短期大学歯科衛生学科の実習受け入れ延べ人数は6,759名、同短大および地域施設への講師派遣20件、また各学会認定歯科衛生士7名は、歯科医師の協力のもと部署別研修を行い、歯科衛生士部の資質向上を目的に努めています。

■ 教育

クリニカルラダーを基礎とした教育プログラムを実施し、1年目から3年目、4年目以上と段階に応じて知識と技術を習得後、評価に伴い自己の見直し、研鑽を行っています。

薬剤部(薬局)

薬剤部は本院における医薬品の安全管理・適正使用支援を担う部門として、安全で安心な薬物療法を確保するために、医師・歯科医師・看護師等の医療スタッフとともに組織横断的なチーム医療の中で、「薬の専門家」としての薬剤師の責務を果たすことを目指して活動しています。



薬局長 外尾 典子



調剤室

■ 運営体制

院外処方せん発行率が98.8%のため、病棟での活動が中心です。病棟では専任薬剤師を配置し、入院患者さんへ患者さん目線に立ちつつ薬学的視点・科学的エビデンスを踏まえた薬物療法に貢献しています。

中央業務では医薬品情報の収集・提供をはじめ、院内での医薬品の管理、調剤、調製に関わり、病棟薬剤師と相互に協働体制をとっています。

また、注射用抗がん剤の無菌調製業務は、感染予防や安全確保を保つため、薬剤師の専門技術が不可欠な業務として取り組んでいます。

■ 運営方針

薬剤に関わる医療過誤の防止に努め、医薬品情報を活用し、医療スタッフへ適切な情報を提供することで、有効で安全な薬物療法に貢献します。

■ 業務内容

内服や外用薬の調剤業務、患者別施用単位別の注射調剤業務、医薬品情報の収集・提供、入院患者さんへの薬剤管理指導業務と病棟薬剤業務、抗がん剤調製・TPN調製、医薬品管理業務、院内特殊製剤の調製、各種チーム医療への参画、コロナワクチン製剤の保管・管理、併設の介護老人保健施設の調剤等

■ 特色

処方医への疑義照会を通して、薬物療法の有効性や安全性の向上に関わる薬剤関連業務を行っています。また、各診療科のカンファレンスや回診への参加をはじめ、感染制御チーム(ICT)、栄養サポートチーム(NST)、緩和ケア等のチーム医療へ積極的にかかわっています。

滅菌・器材部

滅菌・器材部では、部署の一次洗浄を廃止、洗浄・組み立て・包装・滅菌を一元的に行っています。



部長 中畑 高子



組み立て室

■ 運営方針

安全・安心に使用できる医療器材を提供するため、洗浄・滅菌の質の保証、向上を目指します。

■ 業務内容

外来・病棟・手術室・内視鏡室で使用した歯科器材、医療器材を回収、洗浄・組み立て・包装・滅菌後、供給する業務を行います。

器材は、洗浄装置4台、超音波洗浄装置2台、高圧蒸気滅菌装置3台、過酸化水素ガスプラズマ滅菌装置1台を用い、器材に応じた滅菌を行います。(酸化エチレンガス滅菌は外注)滅菌後は、物理学的方法、化学的方法、生物学的方法の3つで検証を行い、滅菌を保証しています。院内感染防止並びに医療安全のため、また、現場の業務の効率化に貢献できるよう努力しています。

| 支援部門 | Medical support Division |

中央診療施設

Centers for Medical Diagnosis and Therapy

臨床検査室

医科歯科総合病院として医科系および歯科系の診療に必要な臨床検査を、正確かつ迅速に行うことをモットーに、多くの検査を当日検査室内で行っています。時間外の緊急手術や診療にも対応し、良質な医療の提供に貢献することを目標としています。特に細菌検査に関しては、院内で培養・同定・感受性検査を行う体制を整え、迅速な感染症対策に寄与しています。2020年9月の新病院移転に伴ってCBCや生化学検査、免疫検査の機器を更新し、今年度はさらに凝固検査機器の更新も行って周術期などの循環障害に速やかに対応し、ほとんどの項目をon-line 病院情報システムで確認できる体制を整えています。



室長 大星 博明



自動分析装置

■ 業務内容

- 検体検査
一般臨床検査、血液・凝固検査、生化学検査、免疫学検査、微生物学検査、病理組織学検査・細胞診
- 生理検査
心臓機能検査、頸部血管・下肢静脈超音波検査、呼吸機能検査、脳波検査など
- 輸血検査
血液型判定、不規則性抗体スクリーニング、クロスマッチ

■ 設備

多項目自動血球分析装置、臨床化学自動分析装置、全自動免疫測定装置、自動グルコース測定装置、自動グリコヘモグ

ロビン分析装置、半自動卓上型尿分析装置、全自動遺伝子解析装置、検体検査システム、細菌検査システム、生理検査システム等

■ 特色

トレッドミル心臓負荷検査、ホルター心電図を予約制で行っています。
睡眠時無呼吸症候群確定診断のためのポリソムノグラフィーを1泊入院で行っています。

■ 外部精度管理

- 福岡県医師会臨床検査精度管理調査参加
- 日本臨床検査技師会精度管理調査参加

栄養管理室

栄養管理室では『患者さんに安全で質の高いおいしい食事を提供し、栄養面により治療に貢献します』の理念の基、きめ細かい栄養管理と愛情を込めた食事作りを行っています。



室長 中畑 高子



元旦



雑祭り

クリスマス

■ 栄養管理

管理栄養士が、入院患者さん一人一人の栄養状態を把握して、個人の状態に合わせた栄養と食事のサポートを実施しています。

■ チーム医療

- 多職種で連携して入院患者さんのQOLの向上に努めています。
- (NST)低栄養や食事摂取不良の患者さんなど、対象患者さんに対して毎週1回NSTチームで回診やカンファレンスを行い、栄養サポートを行っています。
- (褥瘡委員会)月1回の委員会に参加し褥瘡の治療と予防に栄養面よりサポートしています。
- (摂食・嚥下)嚥下造影検査食を作成し検査に立ち会い、食事形態調整のサポートをしています。

■ 病院食

(一般食) 常食、軟菜食、キザミ食、ミキサー食、幼児食、減塩食、便秘食、フィット食、嚥下調整食 等

(特別食) 糖尿病食、腎臓病食、心臓病食、脂質異常症食、膵臓病食、潰瘍食、消化管術後食、低残渣食 等
(流動食) 普通流動食、濃厚流動食、経管流動食
※非常時備蓄

患者さん用、職員用に食料1日3食3日分、水3日分を備蓄、管理しています。

■ 栄養指導 (外来・入院：予約制)

食事療法を必要とする患者さんに、主治医の指示の基、個々の病状に応じた栄養指導を行っています。

- 月曜日～金曜日 9:30～11:00 14:00～16:00
- 土曜日(要相談) 9:30～11:00 (日・祭日は除きます)

■ 学生実習

教育施設としての役割を果たせるよう、管理栄養士養成施設より学生の臨地実習の受け入れを行っています。

予防接種センター

予防接種センターは、福岡県予防接種センター機能推進事業により委託された予防接種に関するさまざまな事業を行っています。アレルギーや前回のワクチン接種で副反応が出て、かかりつけの先生がワクチン接種を心配されている方(予防接種要注意者)の相談や接種を行っています。また、県民の皆様へ予防接種に関する正しい知識や情報の提供、医療従事者向けの予防接種に関するさまざまな研修など地域の予防接種の支援機関としての役割を担っています。



センター長 岡田 賢司



当院予防接種センターでの医療従事者への接種

■得意分野

- アレルギーなど基礎疾患をお持ちの方や前回の接種で副反応が出て、かかりつけ医療機関での接種を心配されている方への予防接種
- 留学や海外赴任などに際しての渡航ワクチン外来

■診療体制

予防接種外来(完全予約制):日本小児科学会指導医・専門医/日本感染症学会指導医・認定医が担当します。

■診療方針

- (1) 福岡県予防接種センター機能推進事業により委託された次の事業を行います。
 - ① 予診を尽くし、十分な説明を行うワクチン接種
 - ② 県民・市民への予防接種に関する正しい知識や情報の提供
 - ③ 医療相談事業
 - ④ 医療従事者向け研修
- (2) 地域の自治体・医療機関と緊密な連携をはかり、信頼が得られる予防接種に努めます。

- (3) 海外渡航・留学などに対応した渡航予防接種外来を行います。
- (4) 予防接種後の副反応や接種間違い等に対する対応や支援を行います。

■対象疾患

- かかりつけの医療機関での接種を心配されている方(予防接種要注意者)の相談や接種
- 海外渡航/留学に対応した予防接種

■主な検査

アレルギー反応予知のための皮内テストや好塩基球刺激試験

■主な治療

- ストレス関連反応を予防するためのワクチン接種前、中、後での心理的および社会的不安の解消
- 注射時の痛みの軽減

■学会施設認定

- 日本ワクチン学会理事長施設

健診センター

健診センターでは「お口の健康から全身の健康」をめざした予防医学に取り組んでいます。法定健診、特定健康診査や、当院オリジナルの定期健診などの一般的な健康診断だけでなく、口腔健診に力を入れています。今年度からは口腔健診をより広めるために、当院の病院長であった阿南壽先生による「お口の健康相談室」と福岡医療短期大学前教授の堀部晴美先生による「お口の健康指導室」を開設しました。口腔の健康は生活習慣病や認知症・フレールの予防に繋がります。口腔衛生を推進することによって全身の健康も維持できます。



■概要

原則、健診センターへの予約が必要です。協会けんぽの法定健診や口腔健診、脳ドック、胃がん検診(内視鏡検査など)、乳がん検診(マンモグラフィ)、肺がん検診、心臓検診(冠動脈CT検査、心エコー検査)、骨塩定量、睡眠時無呼吸検査などは予約が必須です。健診センターでの医師の問診の後、各検査室で検査を施行します。当院オリジナル健診では、当日、結果を説明し、後日、書面で正式報告となります。福岡市の保健事業では、市からの結果報告に2週間ほど時間を要します。異常があれば精密検査の案内や保健指導も行います。また、口腔健診では、パノラマX線撮影も行う「う歯・歯周病」検査のみならず「口腔粘膜検査、唾液分泌量や潜血、顎関節検査」も含み、口腔内病変やオーラルフレイルの早期発見ができます。口臭検査等のオプション検査も用意しています。

■得意分野と診査体制

健診センターの医師は循環器専門医(常勤1人、非常勤2人)が対応しますので、高血圧、脂質異常症、糖尿病、肥満などから由来する生活習慣病予防は得意分野です。口腔健診では総合歯科、保存・歯周病科、補綴科、インプラント科の全面協力のもとに実施し、一般健診においては、総合医学、内視鏡センター、眼科、耳鼻科などの各診療科や放射線部、検査部、看護部、事務部の協力で行っております。地域の高等学校や幼稚園などの歯科検診も行っており、質の高い学校歯科検診を目指し、研究にも繋いでいます。今後も地域に根ざした健診を広げてゆきますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

歯科診療部門

—

医科診療部門

—

診療支援部門

—

中央診療施設

—

事務課

| 支援部門 | Medical support Division |

事務課

Administration Division

事務課

病院事務課では、患者さんの受診に関する業務、医薬品などの購入、経理に関すること、建物の維持管理に関することなど、さまざまな事務処理を行っています。



課長 横大路 智視



総合受付

■ 管理係

健全な病院運営を行うための予算管理、医薬品・医療材料・医療機器等の購入等に関する業務、病院施設の管理および衛生に関する業務のほか、歯科医師の臨床研修に関する業務を行っています。

■ 医事係

患者さんへの受診案内や入退院手続き、診療費等の算定、請求および収納に関する患者サービスに関する業務や保険請求に係る施設基準の届出、医事情報の統計に関する業務を行っています。

■ 医療情報係

病院情報システムの維持・管理、運用に関する業務、診療記録の開示に関する業務、データウェアハウス活用等のガイダンス、診療データの集計および分析に関する業務を行っています。

■ 病診連携係

患者さんの入退院支援に関すること、入院中の療養支援に関すること、社会復帰支援に関することなど、患者さんやご家族から、さまざまなお話をうかがい、不安や疑問を解決するためのお手伝いを行っています。お気軽にお声かけください。

■ 健診センター係

健診センターに係る受診者の受付、案内や受診者情報および診療記録等の保護、管理、統計に関することなど、健診センターの管理運営に係る事務処理全般の業務を行っています。



10. 医療機関の承認・指定状況

Legal Authorization of Medical Institution Designations and Accreditation of Academic Society

1. 医療機関の開設等

区分	開設等年月日
医療法に基づく病院開設	昭和48年 2月21日
臨床修練指定病院	昭和63年10月15日
日本医療機能評価機構 病院機能評価認定	平成20年 5月19日 (平成30年5月11日 2回目更新)
福岡県予防接種センター 指定	平成28年 4月1日

2. 学会認定

[認定施設名]

- 日本外科学会
- 日本消化器外科学会
- 日本食道学会
- 日本眼科学会
- 日本心身医学会
- 日本老年医学会
- 日本高血圧学会
- 日本歯科保存学会
- 日本歯周病学会
- 日本口腔インプラント学会
- 日本顎顔面インプラント学会
- 日本総合歯科学会
- 日本口腔衛生学会
- 日本補綴歯科学会
- 日本顎関節学会
- 日本口腔顔面痛学会
- 日本老年歯科医学会
- 日本障害者歯科学会
- 日本矯正歯科学会
- 日本小児歯科学会
- 日本歯科放射線学会
- 日本歯科麻酔学会
- 日本口腔外科学会
- 日本がん治療認定医機構
- 日本有病者歯科医療学会
- 日本医学放射線学会 (画像診断管理認証施設)

11. フロアマップ

Floor Maps

1F



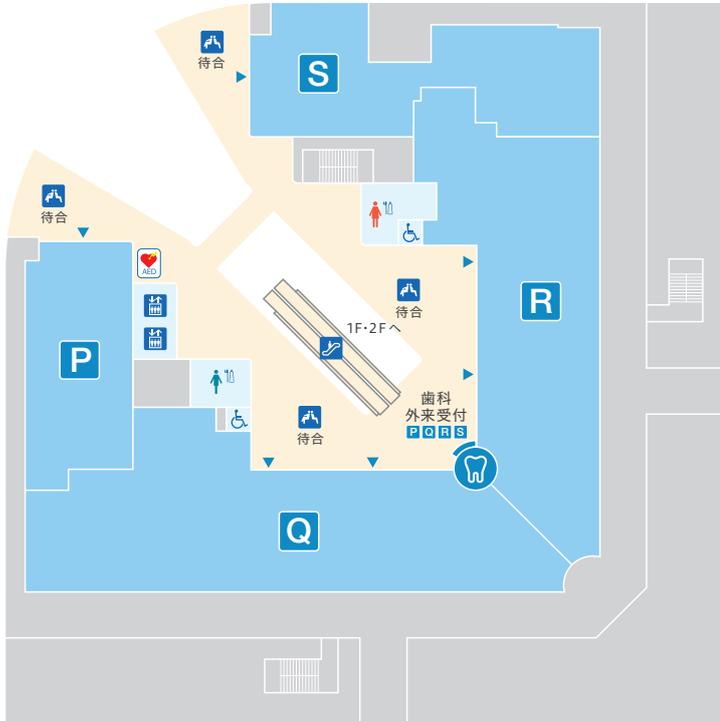
- i** 総合受付
- 1** 初診・紹介
- 2** 再診
- 3** 入院・面会
- 4** 会計
- 5** 自動計算機
- 6** 再来受付機
- 7** **A B C** 相談室
- 8** 薬局
- 9** 時間外受付
- A** 内科・外科・整形外科
- B** 障害者歯科
スペシャルニーズ歯科
- C** 健診センター
- D** 放射線診断科
放射線検査
- E** 生理検査

2F



- F** 眼科
- G** 耳鼻咽喉科
摂食嚥下・言語センター
(ことばと飲み込みのケアセンター)
- H** 皮膚科
形成外科
- J** 心療内科
- K** 矯正歯科
- L** 口腔外科
スポーツ歯科
顎変形症センター
- M** 小児歯科
小児口腔外傷センター
- N** 小児科
予防接種センター

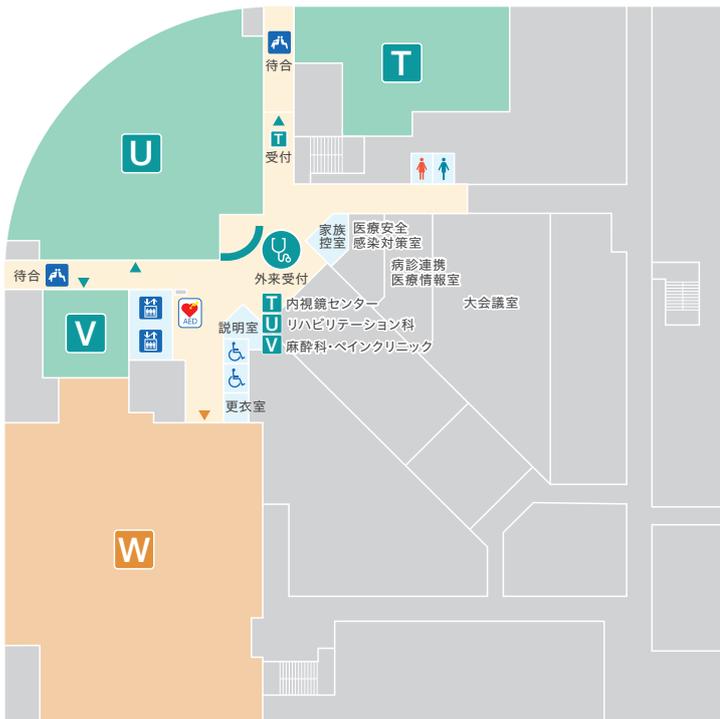
3F



P Q R S

- 高齢者歯科
- 歯科初診
- 総合歯科
- 訪問歯科センター
- 口臭クリニック
- 歯周病科
- 保存科
- 歯内治療
- 補綴科
- クラウン・ブリッジ・義歯
- 美容医療センター
- 口腔インプラント科

4F



- T** 内視鏡センター
- U** リハビリテーション科
- V** 麻酔科・ペインクリニック
- W** 手術室

5F

病室 501~528



診療科のご案内

5階 ■ 病棟

4階 ■ 内視鏡センター ■ 麻酔科・ペインクリニック
■ リハビリテーション科 ■ 手術室

3階 ■ 歯科初診 ■ 補綴(入れ歯)科
■ 総合歯科・高齢者歯科 ■ 口腔インプラント科
■ 訪問歯科センター ■ 健診センター(口腔健診)
■ 保存(むし歯)・歯周病科

2階 ■ 眼科、耳鼻咽喉科、 ■ 矯正歯科、口腔外科
皮膚科・形成外科、心療内科 ■ 小児歯科、小児科

1階 ■ 総合受付 ■ 健診センター
■ 内科・外科・整形外科 ■ 放射線診断科、検査室
■ 障害者歯科、(スペシャルニーズ歯科)

エスカレーターで2階、3階へ (4階、5階(病棟)はエレベーターをお使いください)

病院外観



シンボルマーク



「つなぐ」

患者の皆様とともに病院と地域をつなぐ



Fukuoka Dental College Medical and Dental Hospital Outline 2022

一般財団法人 日本医療機能評価機構認定病院

福岡歯科大学医科歯科総合病院

〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1

TEL:(092)801-0411 FAX:(092)801-0459

E-mail:byouin@college.fdcnet.ac.jp

<https://www.fdcnet.ac.jp/hos/>

